

**Etat actuel des Mazarinades conservées au Center for Historical Social Science Literature, l'Université Hitotsubashi (2009), suivi du *Catalogue des Mazarinades* et de la *Liste des Mazarinades contenues dans les Recueils factices***

古典資料センター所蔵「マザリナード」の現在

——附所蔵マザリナード一覧及び選集合本内容一覧——

**Yasushi NORO**

野 呂 康

# 古典資料センター所蔵「マザリナード」の現在 附所蔵マザリナード一覧及び選集合本内容一覧

野呂 康

## はじめに

2008年、筆者は一橋大学社会科学古典資料センター（以下、センターと略す）が主催する第28回西洋社会科学古典資料講習会において、「フランス十七世紀における書物をめぐる状況」という講演をする機会に恵まれた（11月14日）。講演では書籍の出版、収蔵、用途という観点から個別のテーマを設定し、それぞれフランス十七世紀の出版統制、図書館の成立、論争文書とマザリナードについての話をした。一橋大学には、19世紀の書誌学者セレスタン・モローによる分類番号で、「3053」というマザリナードが所蔵されていることが以前から指摘されていたため<sup>1)</sup>、この機会を利用して当該文書を参照させていただくつもりで、講習会の数ヶ月前にセンターに足を運んだ。その後職員の方々のお勧めもあり、所蔵品を調べてみたところ、かなりの数のマザリナードが様々な「文庫」に散在していることが判明した。

我が国においてはこれまで、一部の研究者を除き、歴史・文学研究者や司書の間でさえ、マザリナードは資料として認知されてこなかった<sup>2)</sup>。それゆえ、我が国で書籍を収蔵する機関にマザリナードの「コレクション」と銘打たれたものはほとんど存在せず、おそらくはセンターでのように他の文書に紛れて保管されているため、当該の文書がマザリナードであることすら判然としないこともあると思われる。

そこで以下ではまず、マザリナードの定義とその定義が内包する限界を指摘する。この箇所では、既出の拙論や発表と多少の重複がある点、予めお断りしておきたい<sup>3)</sup>。次いで、センター所蔵文書の調査結果を記す。さらに調査結果に基づいて、センター所蔵文書の一部が世界的にみて稀少性の高いマザリナードであることを明らかにする。最後に、センター所蔵の「選集」（正確には、「フランクリン文庫 2289」）から伺える、マザリナード研究の今後のあり方と可能性に言及する。

本論考とは別に、現時点でセンターに所蔵されているマザリナードの一覧を掲げる。但し、ここで提示された一覧は、正式なセンターの目録（またはカタログ）ではない。所蔵品の忠実な記述を目指し司書が作成する目録と、研究者の関心で集積されたテキストの一覧とは、用途も機能も自ずから異なる。それゆえここでは、あくまで私の、研究者としての視点から構築された一覧を提示することにした。

## 1. マザリナードの定義とその限界

### 1.1. マザリナードの定義

フランス史上、論争や批判、宣伝や風刺などを目的とした大量の文書（パンフレ）が出回る時

期が3つある。まずは16世紀末のことで、旧教（カトリック）と新教（プロテスタント）が対立した宗教戦争の時期、次いで17世紀半ば、歴史上「フロンドの乱」の名で知られる時期、そして18世紀末のフランス革命期である。場合によっては「68年5月」運動を入れて、4つの時期とすることもできるかもしれない。

マザリナードとはこれらのうち二番目の時期、すなわち1648年から1653年の6年間に飛び交った大小様々な政治文書を指す総称である。この名称は当時宰相であったマザラン枢機卿に由来する。マザリナードに分類される文書群は、7頁から8頁の短い小冊子から、完全に書籍の体をなした大部の印刷物まで5000種以上あるといわれる。短い文書の場合には、今の貨幣に換算すれば数百円ほどの比較的安い金額で売られていた<sup>1)</sup>。文書が出回り始めた当時から既に収集対象とされ、現代に至るまで収集家が存在する。内容的には主に都市部で生じた出来事の報道、王令や最高諸院裁決のような公文書、政敵に対する攻撃文・擁護文など多彩を極めている。また形式も公文書、宣言、詩、小唄、手紙など、こちらも多種多様で統一性はない。

## 1. 2. 語義とニュアンス

上述のように、マザリナード (Mazarinades) の名称は確かに宰相ジュール・マザラン (Mazarin) の名に由来し派生した語で、その語義としては<マザラン叙事詩>、<マザランの営み>、<マザランの愚行>等々の意味が考えられる<sup>5)</sup>。またそれらすべてを総括して<マザランもの>というのも、語の定義としては可能である<sup>6)</sup>。

この語の接尾辞 (-ade) に関していえば、二つの異なる用法があるという<sup>7)</sup>。一つには例えば「綿」(coton) という語につけて、「綿布」(cotonnade) のように名詞の集合体をつくる用法、あるいは「或る行為の結果」を指す用法である。フランス語で「笑う、ふざける」(rigoler) という単語につけて、「笑うこと、冗談」(rigolade) のような言葉を合成するのが後者の用例となる。したがってマザリナードとは「マザランの行い」、それが複数形で用いられて「マザランの行い全般」、その総体を指すことになる。

さらに、このマザリナードという語を単数・定冠詞付で、そのまま題名に用いた『ラ・マザリナード』という韻文作品（1651年、スカロン作といわれる）の背後には、半世紀以上前に書かれたロンサールによる詩作品『フランシヤード』や、ホメロス作といわれる叙事詩『イリヤード』が想定されている。『フランシヤード』はフランスの歌、『イリヤード』はイリオスというギリシャ神話に出てくる都市の歌の意味で、これに倣えば、マザランの歌、英雄マザランを謳いあげた叙事詩というニュアンスも、この語には纏いつているのである。

マザリナードという語とカテゴリーを考える上で、これら「行い」と叙事詩という二つの含意は見逃すことができない。マザランには王母との性的関係に関する噂があったし、重税による搾取を暴露する文書も多数存在する。要するに、叙事詩において詩人が英雄の生涯を謳いあげるように、マザリナードではマザランの行いが細部にいたるまで荘重に語られるわけで、この語には自然と嫌味や皮肉といったニュアンスが付着しているのである。

それでは、以上のような語義や語が纏うニュアンスに鑑みて、マザリナードとはマザランを嘲

笑・批判する文書かというと必ずしもそうではない。反対にマザランを擁護する文書や、あるいは内容からみてマザランに無関係の文書も、このカテゴリーに含まれている。すなわち現代では、語とその指示体が一致しないのである。こうした不都合な事態が生じたのには、主に二つの事柄が作用している。一つにはフロンドという出来事の複雑さ、もう一つにはマザリナード収集（コレクション）のあり方である。

### 1.3. フロンド

歴史上、ルイ十四世の幼少期、王の代理としてマザランが統治していた時代に生じた内戦は「フロンド」と呼ばれる<sup>9)</sup>。1648年、財政危機を背景にして、マザランの政策に都市民と最高諸院<sup>9)</sup>の官僚が反撥、フランスは内戦状態に陥る。フロンドとは官憲の目を盗んで学生が興じた投石遊びに由来するといわれる。この呼称は当時からのもので、運動の初期に都市住民が政府に石を投げつける様子が、この遊びに重ねあわされたのである。伝統的な歴史記述において、この運動の経過は前半の「高等法院のフロンド」、そして後半の「貴族のフロンド」に分けて記述されることが多い。これに時折、「民衆のフロンド」が付け加わる。だが実際には、フロンドは複雑な権力闘争の場である。運動の進行に伴い、権力者間の党派対立は熾烈を極め、非常に複雑な様相を呈する。1653年、最終的にルイ十四世とマザランの国王軍がコンデ親王軍を破り、ここに内戦が終結する。

マザリナードと呼ばれる文書群は、この内戦期の複雑な党派と力関係を反映する文書の総称である。5000種以上もある文書では、マザランばかりが標的にされたわけではない。逆にマザラン側から発信された文書も存在する。マザランの与り知らぬところで展開された大貴族間の闘争や論戦もある。ゆえに名称の由来にもかかわらず、マザリナードをマザランと直結し、反マザラン文書やマザラン批判文書ととらえることはできない。

内容・形式共に統一性の無いマザリナードというカテゴリーを支えるのはしたがって、1648年から1653年に生産されたフロンド関係の政治文書という把握の仕方である<sup>10)</sup>。但し、歴史的出来事として時期も評価も一定した感のあるフロンドではあるが、実はここにも多くの不安定要素が組み込まれている。二、三の例を挙げるにとどめるが、まず歴史家リチャード・ゴルデンの唱えた、1652年から1662年の「聖職者の[または教会の]フロンド」<sup>11)</sup>は、政治文書以外を排除しようとするこのカテゴリーから漏れてしまう。「政治的な」フロンドの立役者の一人レ枢機卿に関連した文書は、1652年以降増えるはずだが、マザリナードからは除外されかねない。「政治」とは無関係な「宗教」文書も同様である。また、伝統的な歴史記述では、「1648年5月13日」の「最高諸院による連合裁定決議」がフロンドの嚆矢とされているが、二人の歴史家デシモンとジュオーはその共著において、「1648年1月11日から14日」に生じたパリ市民の暴動も考慮するよう促している<sup>12)</sup>。こうしてフロンドの定義にもふれがることがわかる。

また、フロンド前、あるいはフロンド後に生産された文書が、後からフロンドに関連付けられる場合もある。1643年に書かれた「王弟[ガストン・ドルレアン]の行動に関する故ルイ十三世の評価」<sup>13)</sup>という文書は、弟の統治能力に疑問を持ったルイ十三世が残した文書で、後者が死

にルイ十四世が即位すると、ガストン・ドルレアンはすぐさまそれが書かれた公開状を登録簿から抹消してしまった。ところがこの文書は、ガストン・ドルレアンの信用を貶めることを目的として1652年に印刷される。執筆時はマザリナードではなくとも、フロンド期に出版され、それも政治目的で利用されたがゆえに、文書はマザリナードとなる。したがって、生産時期も一つの目安にすぎないわけである。

こうして「フロンド期」の「政治」文書というマザリナードの定義それ自体が不安定で、かつ宰相の名と切り離されたところで生成したものであることがわかる。だが、マザランの名とマザリナードというカテゴリーが分離するには、もう一つの要因が考えられる。それが収集（コレクション）の存在である。

#### 1.4. 収集（コレクション）

既にフロンド期には、マザリナードの同時代のコレクターが存在した。だが、当時の収集家（コレクター）は何らかの目的で文書を収集していたにすぎず、「マザリナード」として体系的な収集に努めていたわけではない。この呼称がフロンド期の文書一般の意味に用いられるのはずっと後のことである。

廣田昌義氏は、1652年に刊行された或るパンフレの語義にしたがって、この呼称がスカロンの（といわれている）5点のマザラン風刺の戯詩の総称か、詩形式のパンフレを指していることをつきとめている<sup>14)</sup>。同氏はまた、このような語の用法が拡張され、フロンド期のパンフレ全体を指す呼称として用いられるのが、1719年オラトリオ会士ジャック・ルロンによる『フランス歴史書誌』（9295番）以降ではないかという。この点には若干の留保をつける必要があると思われる。次第に高揚しつつある文芸共和国への帰属意識からであろうか、ディドロ、グランベールによる『百科全書』以前、知を集積し文芸者を列挙する営みなら、17世紀末から18世紀中葉にかけて、枚挙に暇がない。それは例えば、モレリとその辞典を引き継いで初版の数十倍の分量にしてしまう作業であり、またピエール・ベールによる『歴史批判辞典』とその増補、ニスロンの人名辞典などである。ルロンの作業もこうした流れに位置づけられるとすれば、マザリナードという語の使用法に関しても、ルロンが初出かどうか知るには、さらなる探索が試みられる余地があると思われるからだ。

いずれにせよ、フロンド関連文書をマザリナードと呼ぶ慣例が定着するのは、19世紀半ばに浩瀚な三巻本の『マザリナード書誌』を出版したセレストン・モローの研究以降のことである<sup>15)</sup>。モローによる分類作業以降、書籍商、収集家、司書はモローの『書誌』に掲載されているか否かを基準に判断し、売買するようになる。『書誌』に掲載されていればマザリナードであることに間違いはなく、されていなければマザリナードではないか、さもなければ掲載されていないからこそ貴重な文書、すなわち高価なマザリナードと判定されるわけである。マザリナードを1648年から1653年に出版されたフロンド関連文書と定義し、モローによる『書誌』を刷新すべく、新たな「書誌」づくりに挑んでいた故ユベール・キャリエの研究は、未完の「書誌」に関する限り、それが批判的な姿勢からなされたものであるにせよ、モローの流れを汲むものである<sup>16)</sup>。モロー

にせよ、キャリアにせよ、理想のコレクション、または何処にも存在しないという意味で架空のコレクションを「書誌」という形で提示する。その場合、幾ら網羅的であったとしても、いつの時代にも選から漏れたマザリナードは存在することになるし、そもそも上述のようにフロンド自体の定義が異なれば、マザリナードに含まれる文書の質と内容もそれに呼応する。してみれば、モローの『書誌』もキャリアの「書誌」も歴史的構築物として相対化して考えねばなるまい。すなわち両者ともに、分類・配列・言語を機軸とし、その時代における判断と価値基準を踏まえた同時代の歴史記述であらざるをえない。その意味では、決してフロンド当時の同時代コレクションが具えていた意義も効用も明らかにするものではない。

要するに、マザリナードを定義するなら、否応無く定義が行われる時代の基準と選択が反映されてしまう。また将来的にフロンドの定義に異議が唱えられれば、マザリナードというカテゴリーも変化せざるをえない。マザリナードの定義が内包する、決して尽きることのない不安定さとは以上のようなものである。

## 2. センター所蔵文書調査結果

定義の不安定さを常に意識しつつ、現時点でマザリナードに属する文書を探索し確定するには、幾つかの手続きを踏まねばならない<sup>17)</sup>。それはやや煩瑣ではあるが、手順さえ踏まれば容易な作業である。ここでその要点のみ繰り返すなら、或る文書を前にして、まずは150年以上前に上梓されたモローの『書誌』を参照する。次いで『書誌』から漏れた情報を、著者による三回の「補遺」で確認する。そうした上で、ソカール、ラバディによる補遺及びハーヴァード大学ホートン図書館の目録を参照する。最後に、インターネットを用いて、ホートン図書館及びマザリヌ図書館のホームページ上で情報検索をする。ここまでで見つからなければ、文書がマザリナードではないか、または「新発見」のマザリナードであるか、どちらかの可能性を考える。さらには、フランスの地方都市トゥールにあるフランソワ・ラブレール大学まで出向いて、未完の状態で残されたキャリアの「書誌」を参照することも考えられよう。

以上が或る文書がマザリナードかどうかを判定する手続きであるが、それ以前に、そもそもそうした文書が所蔵されているかどうかを知るには予備作業が必要とされる。筆者がセンターで行ったのも、まずはそうした予備作業であった。

筆者はまず、センターにおいて既に電子入力されている書籍をリストの形で司書に打ち出してもらった。その際の条件は、1. 1640年から1660年までの印刷物であること、2. フランス語、ラテン語、イタリア語、英語、ドイツ語のいずれかであること、この二点である。そのリストを眺め、フロンドに関連するものを探しながら、今度は1648年から1653年に限定して、同様のリストを作成していただいた。この時点で、1648年以前か1653年以降に生産された印刷物で、前述のように事後的にフロンドに関係する（「マザリナードになる」）可能性のある文書ははじいたことになる。

1648年から1653年の印刷物リストから、今度は明らかにフロンドと無関係と想われるもの、例えば1650年にオランダの書肆エルゼヴィールから出版されたデカルトの『省察』のラテン語

版などは排除し、それ以外の文書は大小を問わず、すべて書庫から出してもらい、マザリナードかどうかの判定を行った。その際の基準は、1. フロンド関連文書であること、2. フロンドとの関わりが判然としない場合でも、その時期の政治・社会、広く「出来事」に関わるものであること、3. 典型的にマザリナードの特徴を示しているもの（小冊子形式、7から8頁、20センチ程度の版型）、この三点である。

さらに、センターには未だ電子入力されておらず、旧来のカード方式で検索しなければならない文書も一部存在する。センターでの受け入れ順に目録カードを配列したもので、一般には公開されていない<sup>18)</sup>。これに関しては、出版年による検索も不可能であるため、カードを一点ずつめくり、上記の基準に叶うものはやはり出していただいて確認した。こうして残ったのが全67点である。

センターでは従来、著名人の旧蔵書や世界的なコレクションをまとめて購入していたため、マザリナードと銘打たれたコレクションはなくとも、これらの「文庫」の中にマザリナードが散在しているのである。

内訳を記すなら、1850年以前の蔵書をまとめた「貴重書」に3点（このうち合本が1点あるため、計2冊）、「メンガー文庫」に7点（合本1点で計6冊）、「フランクリン文庫」に57点（合本2点で、計53点）である<sup>19)</sup>。ラテン語文献は1点のみ<sup>20)</sup>で、残りすべてはフランス語で書かれている。内容からみれば全く同じものがあるため、全体では63タイトルということになる（但し全くの重複ではなく、異版であったり、選集に採録された、内容を同じくする文書がほとんどである）。刊行年から見れば、1648年（2点）、1649年（12点）、1650年（3点）、1651年（40点）、1652年（6点）である。パリで発行されたものが27点、トゥールーズ18点、その他が4点、出版地不明が14点ということになる。さらに注目すべきは、これらのうち、モローの『書誌』に掲載されていない文書が26点で、その大半がトゥールーズで発行されたものとのことである（17点）。

以上のような調査からは、幾つかの興味深い結果を得られる。以下三点に絞り、考察してみたい。とりあげるのは一連のトゥールーズ文書（H004-H012, H040-H047, H082, H095）、「エクス市衛生局」の公布した御触書（H123）、そして合本（H100-H103）である<sup>21)</sup>。

### 3. 所蔵文書の特徴

#### 3.1. トゥールーズ・シリーズとフランクリン文庫

第一に、モローの『書誌』に掲載されていない文書を取りあげる。これには、センター職員の福島氏によると「トゥールーズ」で発行されたものが17点あった。筆者の計算では『トゥールーズ高等法院裁決』が8点（H005-H012）、『高等法院登録簿抜粋』が8点（H040-H047）、その他が2点（H082, H095）、計18点となる<sup>22)</sup>。その他の2点を除けば、二つの系統の文書群に分けることができる。これまでのフロンド及びマザリナード研究は、一部の研究を除いて、パリを中心としていた。そのため、ここにみられる地方都市発信のマザリナードが今後の研究に裨益すること

は疑いない。1651年3月11日から6月10日（第一系統）、そして1651年5月6日から1652年2月15日（第二系統）のように、ほぼ連続した形での公文書を見ることができるのは、地方におけるフロンドの動向を知るのに都合が良いといえる。

今仮にこれらの文書を「トゥールーズ・シリーズ」と呼ぶとすれば、これらはモローの調査・関心・分類法またはその弱点を知る上でも興味深い一連の文書である。実はモローの『書誌』には調査地が記されていない<sup>23)</sup>。モローは、パリを中心とした幾つかの図書館での作業から『書誌』をまとめたといわれる。したがって『書誌』では、地方から発信されたマザリナード、または地方で印刷されたマザリナードに遺漏が多いといわれる。ちなみに、2009年現在、最大規模のマザリナード・コレクションを誇るフランスのマザリヌ図書館のサイトにおけるインターネット検索においても、これらの文書は見当たらない。この意味でも、「トゥールーズ・シリーズ」は貴重であるといえよう。

また、「トゥールーズ・シリーズ」に属する文書はすべて、フランクリン文庫に属する。上述福島氏の発表に拠れば、センターの保管するフランクリン文庫は、アメリカの古書籍商パート・フランクリン(1903-1972)の収集した文書からなる。フランクリンはまた、古典文献のリプリント版を発行することでも知られていた。ところで、モローの『書誌』には二種類のリプリント版がある<sup>24)</sup>。このうちの一つは、まさにフランクリンによるものである。フランクリンは『書誌』三巻本に、モロー自身による補遺（第二補遺）、フェン＝デル＝ハーゲンによる『書誌』への訂正、ソカール、ラバディによる補遺も合わせて収録し、四巻本として刊行した。したがって、古書籍商としてマザリナードを扱うフランクリンが、マザリナードの市場価値に通じていたことは容易に想像できる。「トゥールーズ・シリーズ」がフランクリン文庫に偏っているのは、その意味で必然なのである。

このように考えれば、その他モローの『書誌』未収録文書が、すべてフランクリン文庫に属しているという事実にも驚くにはあたらぬ。またフランクリン文庫には、合本のマザリナードも含まれる（H100-H103：Franklin 2289）。この合本には四種類の選集、計57点のマザリナードが収録されているが、フランクリン文庫に単品として分類されるマザリナードのうち、選集に含まれるものと重複したマザリナードはたった1点のみである（H020とH018）。こうした事実からも、フランクリンがマザリナードに精通し、おそらくは意識的にモローの『書誌』に掲載されていないマザリナードの収集に努めていたことが推測できるのである<sup>25)</sup>。

### 3.2. 御触書

2009年9月25日から10月7日の期間、センターでは「マザリナード特別展示」が開催された。世界でもセンター以外では確認されていない「トゥールーズ・シリーズ」や、ジャンセニストであるロベール・アルノー＝ダンディのものとしてされる有名なマザリナード『赤裸々の真実』、反ジャンセニストとして知られたピエール・ド・サン＝ジョゼフによる『徴税請負人手引書』などを含む10点ほどのマザリナードが一般に公開された。とりわけ耳目を引いたのが、額入りの「御触書」すなわち『エクス市衛生局決議 1649年10月6日付』（エクス（南仏）、1 sheet、33 x

26 cm) であった。

「衛生局は以下を命じた。今後、シウタの町へ向かうラバ引き御者は、エクス市にて道案内を雇うこと。シウタの町からエクス市へ向かうラバ引き御者は、道案内をやはり一人自費で雇うこと…。」この資料は南仏エクス市（現エクサンプロヴァンス）の制度改革に関係したと思われる文書である。内容からすれば『赤裸々の真実』のようなマザリナードと比べるべくもなく、今日からみて鑑賞に耐えるようなものではない。とはいえ、地方史や言語研究の観点からすれば興味深い資料といえるだろう。

この文書の特徴を列挙するなら、まずエクスに限らず地方発信のマザリナードは稀少であるし、ゆえにモローの『書誌』から抜け落ちている可能性も高い。次いで版型も特異である。多くのマザリナードは7ページから8頁ほど、20センチ強の文書である。これは印刷技術だけではなく、販売形態を意識した、おそらくは当時にしてみれば最も合理的な版型であったと考えられる。これに対して、ここでの「御触書」は一枚形式で、版型も二周りほど大きい。最後に、この文書の用途である。この文書のような貼紙は時間がたてば剥がされてしまう運命にある。ユベール・キャリエは、「貼紙」<sup>26)</sup>は現存が30種弱、資料で確認できるのが60種程度、当時貼られたのは「100種か、せいぜい200種」と推測している。この数値に公文書が含まれるのかどうかは判らないが、以上に挙げた物理的条件を考えれば、貼紙形式のマザリナードはその存在自体、稀であるといえる。

この文書は、モローの『書誌』にも、最大のコレクションを誇るマザリヌ図書館の目録にも記載されていない。エクスの古文書館にはあるかもしれないが、今のところ世界で現存が確認されている唯一の文書なのである。

### 3.3. 合本

#### 3.3.1. 合本と選集

センターには、幾つかのマザリナードの合本が保存されている。売り上げの好調だったマザリナードに他人が手を加え、続編を出版することもあり、見かけ上連続した文書と一緒に綴じられることもある。これらのうち、複数の選集を一冊にまとめた合本がセンターには収蔵されている<sup>27)</sup>。本論ではこれに着目してみたい。

既にキャリエが指摘しているように<sup>28)</sup>、「合本」(recueil factice)と「選集」(recueil)は分けて考える必要がある。

合本とは何らかの収集原理に基づいて文書を集めた者が、複数の文書をまとめ、一冊の書籍の形式に綴じて保存したものである。当然の事ながら、合本には収集者(コレクター)の興味、関心、用途、趣味などが反映されていると考えられる。キャリエは「或るマザリナードが合本に収録されているからといって、それには何ら意味がない」という。多くはフロンドが終息して後に編まれたものであり、またフロンド期に集められたものでも、売れ残りや割引価格で束にして売られたマザリナードを綴じた合本があるからである。

これに対して「選集」とは、書籍商・印刷業者が文書を厳選し、原本を参照しながら、幾つか

のマザリナードをまとめて再版したものである<sup>29)</sup>。ゆえに選集に含まれるマザリナードは「選択・厳選」の対象であり、出版当時「無視することのできない、人気を博した証拠」となる。フロンドの証人ギー・パタンは手紙の中で、良いものもあるが悪いものが無数にあるため、マザリナードは買わないという。「宮廷にある三つの書店が〔マザリナードの〕選集を一つ作ろうとしており、それなら良いマザリナードしか収録しないだろう。」<sup>30)</sup>

要するにキャリアの関心は、当時の成功を計る指標として、合本よりもむしろ選集に向いているわけであるが、ここで収集原理に焦点を据え、見方を逆転させることも不可能ではない。マザリナードにはフロンド当時から収集家があった。フロンド期の貴重な資料の一つ、フランソワ・デュビュイソン＝オーブネーの日記には、マザリナードのコレクションが掲載されているというし<sup>31)</sup>、そもそも最大規模のマザリナードとして知られるガブリエル・ノーデによる『マザラン枢機卿に対するすべての印刷文書についての評価 — 1649年1月6日から4月1日の和平宣言まで』(通称『マスキュラ』)<sup>32)</sup>は、文字通り最初の書誌乃至目録であり、また、コレクションのリストであった可能性もある。ガブリエル・ノーデはマザランの図書室で司書をしており、マザランに向けられた大量の文書の重要性を早くから認識し、収集に努めていたといわれる。その一種の経過報告が『マスキュラ』なのである。文書収集の基準と効用、政治的機能性を問うなら、当時の関心をリストの形で映し出す合本こそが第一級の資料と考えられるだろう。結局のところ、研究者の問題意識と視座により、資料における価値の重心は移動するのである。

### 3.3.2. 選集

さて、センターに所蔵される合本の制作年代は不明である。フランクリンがどのような経緯でこの合本を入手したのかも、今となっては知りようもない。それゆえ、この合本に収録されたマザリナードから、何らかの帰結を導き出すことはまずできない。ところが、この合本の構成には非常に興味深い点が伺える。実はこの合本には、四つの互いに異なる選集が綴じられているのである。

だが選集にも二種類ある。すなわち、まず書籍商・印刷業者が収集し、そのまま束ねるか製本して販売したものである。『文書集成...』(*Recueil de plusieurs pièces...*)と印刷された表紙のみが現存するため、この手の選集の存在が容易に推測できるという。次いで、業者が収集した後、自分の工房で版を組みなおして独自の選集として売り出したものがある<sup>33)</sup>。ここで仮に前者を収集選集、後者を再版選集と名づけるとすれば、収集選集のために用意された表紙に、再版選集を合わせる場合も考えられる。その際、再版選集のための文書が例えば地方都市ルーアンなどで印刷された場合、表紙と内容がずれてしまう可能性もあるので、選集は目次と突合せ、一つずつ確認せねばならない。いずれにせよ、これらの選集の多くには『文書集成...』に類した題名が付けられている<sup>34)</sup>。モローの『書誌』は、ここでも欠点の一つを曝す。おそらくは見慣れた文書の寄せ集めとの思い込みからだろう、『書誌』では選集の題名は列挙されているが、それに関する詳細な記述は残されなかった<sup>35)</sup>。選集に見られるジャンルや選択基準に関しては、未だ研究の余地がある。

ところで前述のように、キャリアは選集に「人気」の指標を見た。この表現は、否応無く無数の読者・大衆を想起させる。そもそも、表紙のみ、目次のみ印刷されたマザリナードが現存することに鑑みて、パリでは売れない文書の購買欲を地方で高めるために、選集のリストに組み込むこともできることを想えば、選集にとりあげられていること自体には、複数の解釈があってよいはずである。したがって必ずしも成功の意味を、漠然とした「人気」なるものに限定する必要はない。ところで、選集の出版で利益を得るのは、まずもって文書を「選択し」、まとめ、表紙を作成する書籍商・印刷業者であり、呼び売り人（小間物行商人）である。そうであってみれば、読者という受け手ではなく、文書の発信者の「コレクション」概念を問題にすることができるだろう。

さらに選集がルーアンなど地方都市でも印刷されたことを考えれば、成功とは、パリから地方へというフロンドの波及と「地域化」(localisation)とも合わせて考察すべき現象である。マザリナードの9割がパリから発信されているからには、その他の地方でマザリナードを入手する困難は、選集の存在そのものと、選集のリストが示す選択の提示により緩和される。19世紀以降の新聞が国民国家形成の一端を担っていたとするなら、定期刊行物でもなく、また日刊でもないマザリナードの選集こそが、部分的にせよ、全国区での政治機能を担っていた可能性があるのだ。

以上のような選択と成功の視点から、今後、選集に含まれる文書の「類型学」(typologie)こそが問題とされてよい。フロンドが終結した後に編まれた好奇心からの収集(コレクション)の基準は別に考察するとして、いずれにせよ、フロンドの当時から人々の関心を惹きつけたジャンル、文書内容、配列、いわばコレクションの心性は興味深い研究対象となるだろう。

### 3.3.3. 合本に収録された選集<sup>36)</sup>

#### 3.3.3.1. 「現代の秘められたる文書選集」第一巻

センター所蔵の合本冒頭に綴じられているのは、「現代の秘められたる文書選集」である<sup>37)</sup>。まず、モローによる評価をみよう。

[この題名で] 二文書<sup>38)</sup>ある。これ以上の必要があろうか。

秘め事があるというのは題名だけの話である。

これら選集はすべて、明らかに初期の『現代珍文書選集』の真似をして陸続と出版されたものである。今日では、これらの文書にはほとんど面白味がない。終始文書の選択が悪いし、マザリナードの愛好家であれば、間違いなくオリジナルの版を好もうというものだ。

この選集の文書は微妙な題名の違いがあるとはいえ、確かにすべて『書誌』に掲載されている。したがって、モローによる酷評には一応の理由がある。だがここで収録された文書を眺めながら、モローの言う「面白味」の意味するところを考えてみたい。

この選集には合計15点の文書が収録されている。そのうち、6番目(R06)と7番目(R07)の文書は冒頭に掲げられた目次では二つの異なる文書である。しかしモローでは「散文と韻文が半々」

とされ一つの文書として扱われている<sup>39)</sup>。また本文では両文書共同の題名を採用しており<sup>40)</sup>、二つで一冊ともみなせる。だが、韻文と散文という体裁・文体が全く異なること、正・続編などは別文書として扱うことが多いこと、さらに後に触れる第三選集の三文書(R40-R42)は第一部、第二部、第三部として分けて別文書で扱っているため、整合性の観点から、ここでも二冊として扱う。

通し番号が付されていることから、再版選集であることがわかる。出版地は印刷されていない。

さて、「面白味のない」文書ばかりであるとモローは言うが、各文書に付された短い解説では、自身の言を裏切るかのようなコメントが散見される。例えば、1冊目の文書(R01)に関しては、「機知に富み、自由思想の傾向あり」としているし、2冊目のパンフレ(R02)に関しては、ノーデとパタンの評価まで引用している。曰く、「ノーデは『マスキュラ』(pp.11, 199, 208)において、この『手紙』に三回も言及する。それも常に最も注目すべきパンフレの一つとして引用している。ギー・パタンは『最良のもの』のうちに数える。」ちなみにこのパンフレには別人の筆によるものと考えられる続編があり、それも本選集に収録されている(R14)。11冊目の文書(R11)は、「これは出来の悪い部類のパンフレでも、また稀少な部類のパンフレでもない」とする。とはいえ、先ほどの文書などは(R06, R07)、「全体的にひどくばかげている」とにべもない。

要するにモローは、選集の項目では酷評をしているにもかかわらず、個別に見れば、少なくとも幾つかの文書の価値は認めているし、ノーデやパタンの権威は素直に受け入れている。それでは、モローの判断基準とは何か。それは「愛好家」の価値観である。文書の題名の一部である「秘められた」に対する強い拒否反応には、「秘められた」どころかありふれたものばかりという、希少性を判断の中心に置いた価値観が反映されている。してみると、「文書の選択」が良い悪いというもの、収集家の視点からのものと考えてよい<sup>41)</sup>。これはむしろ、モローの、ひいては19世紀中葉の歴史観から導き出された評価であり、この価値観こそが歴史的産物なのである<sup>42)</sup>。フロンド研究の観点からすれば、当時、それもフロンドの渦中に或る選択基準から選ばれた選集の効用と機能を明らかにすることこそが、今後の課題となるだろう。

### 3.3.3.2. 「現代珍文書選集」第二巻

先の選集の直後に収録されているのが、『現代珍文書選集』の第二巻である<sup>43)</sup>。上記第一巻(CM3053)と、この選集及びそれに続く以下二選集(CM3035またはCM2851)は別物である。すなわち系統を異にする二選集が、まるで一つの系統の第一巻から第四巻まで連続したように合本されているのである。モローはやはり内容には言及していないが、『現代珍文書選集』が全部で四巻あることは確認している。

この選集第二巻の文書の数え方は難しい。まず、筆者が目安として番号を付したR16からR19の文書は、選集冒頭の目次では個別の文書として扱われている。だがR16の本文に挿入された題名ではR16-R19が一つの文書をなす。それでは実際に頁を繰り本文を見てゆくと、文書の体裁としてはR16-R18が一冊でR19は独立し、またその後には別の「演説」が置かれている。

ゆえに最初の数え方でいけば文書は総計 15 点、二番目の計算法では 12 点、三番目では 13 点ということになる。ちなみに同文書を所蔵しているマザリヌ図書館では三番目の計算法を採用し 13 点として、すべての文書名を列挙している<sup>44)</sup>。

この選集はルーアンで、それも「出版許可」を得て印刷されたことが表紙からわかる。したがって再版選集である。ほぼすべての文書の末尾に、「ルーアンにて、宮廷付印刷業者による、出版許可つき」という記述が入る<sup>45)</sup>。これはおそらくは、それぞれの文書が個別に印刷されたということだろう。とはいえ、前の文書に続けて印刷されている場合もあるから、すべてが個々別々に印刷されたものかどうかはわからない。

個々の文書を見てゆこう。題名だけから判断すれば、R16<sup>46)</sup>から R19 までの文書は、モローの『書誌』に収録されていない。だが実際には、CM0827 と同じ文書である<sup>47)</sup>。R16 から R19 の 4 文書はすべて CM0827 に含まれる。選集に収録する際に、なぜわざわざ異なるものとして題名と頁番号を付したか、今となっては知りようもない。

R20 もモローの『書誌』未収録文書であるが、次のシャチヨンの手紙を印刷するにあたり付けられた前書きのようなものであるため、おそらくは R16-R19 のように選集に収録するにあたり、目次において本文から独立させたにすぎまい<sup>48)</sup>。モローは「これ [シャチヨン] を主題としたものは 10 点あるが、一つとしてよいものはない」としている。

「国家と宗教の論、高等法院議員へ」と題された R22 の文書<sup>49)</sup>も、この題名ではモローの『書誌』に掲載されていないし、マザリヌ図書館でも見つからない。しかし実際には、モローの『書誌』で 1106 番の文書に該当する (CM1106)。その文書ならばマザリヌ図書館及び東京大学総合図書館にも保存されており、容易に比較ができる<sup>50)</sup>。「現代の出来事に関する国家と宗教の論、母后に」というのがそれで、全体は四部構成、その第二部が「高等法院議員へ」と題され、選集には第二部のみが採用されたわけである。

こうして題名の変更にもかかわらず、ほぼすべての文書はモローの『書誌』に掲載されている。「稀少」さに基準を置くモローの眼には価値のないリストと映ったであろうことは想像に難くない。

この他、この選集には「高等法院とパリ市の婚姻契約」(R26) のように著名なマザリナードが収録されている。これは、1649 年 1 月 8 日の高等法院裁決の直後にでたもので、高等法院の提案、すなわちフロンド派のプログラムを含むパンフレである。モローも、「この文書は最も重要な文書に属す。また最も良く出来た文書の一つでもある」として、「ノーデは『マスキュラ』の 11 頁で、この文書を『論理的かつ高尚』な文書に分類している」と、その評価を紹介している。ちなみにモローもキャリエも、それぞれの編集した選集に収録している。

またモローによると「ジュール・マザランに語りかける、リシュリユー大枢機卿の亡霊」(R30)<sup>51)</sup>には、他では語られない細部の逸話が描きこまれているという。現代の歴史研究では、こうした逸話や主観的見解の強く反映された日記、覚書などは敬遠される。だがテキストの信憑性は別として、たとえ噂レベルのものであっても、同時代のテキストが極めて興味深い証言を伝えることはある。それを歴史資料として読むことができるかどうかはわれわれ読む側の視点と方

法に拠る。その意味でも、これは重要な文書を含む選集なのである。

残念ながらセンターには本選集第一巻のオリジナル版はない。第一巻には高等法院院長の演説や手紙、国王宣言、国務会議議事録抜粋など、公的な性質の記録文書が数多く含まれているが、この第二巻のリストからはそうした公文書の性質が薄らいていることが観察できる。いずれ近い将来、フロンドの情勢、書籍商の戦略と職業作家の政治参加を読み込みつつ、展開されるリストの類型学が現れるのを待ちたい。

### 3.3.3.3. 「現代珍文書選集」第三巻

第三の選集は「現代珍文書選集」の第三巻で、計12点のマザリナードが収録されている<sup>52)</sup>。第一選集の項で触れたように、「マチュラン・ケスチエ氏の見た夜間幻視」(R40-R42)を一つの文書として計算することは不可能ではないし、モローの『書誌』では「幻視」が全体で「六部構成、各8頁」であることを確認しつつ、まとめて一文書として掲載している<sup>53)</sup>。だがその場合には、R06-R07の二文書も一文書としなければ整合性が保てないというのは既に指摘したところである。

第二選集のように、各文書の末尾に出版地が書いてあるわけではない<sup>54)</sup>、表紙から察すれば、明らかに再版選集であるが、それでも疑問は残る。R33<sup>55)</sup>は目次では17頁目から始まることが予告されている。だが実際の文書にはpp.5-12という頁番号が連番で打たれている。この文書を見た読者の一人は誤植と考えたに違いない、鉛筆でpp.17-24と修正が施されている。だが本当に誤植であったろうか。別に収集したこの文書のみを、他の再印刷した文書に繰り込んで綴じたものではないだろうか。すると、収集選集と再版選集を組み合わせた風変わりな選集ということになるが、どうだろうか。

その他ではR34の文書はそのままの題名ではモローの『書誌』に見当たらないが<sup>56)</sup>、これも実際には『書誌』に収録されている<sup>57)</sup>。

R38は「国家の悪政に関する、摂政母后への建言書」と題されている。モローの『書誌』に掲載されているのは、「悪政(=悪い政治)」の「悪(=悪い)」をとった題名の文書であり、内容は変わらない<sup>58)</sup>。だがこの一字の違いが、おそらくはオリジナル版と選集収録時の政治状況の変化に対応しているのではないかと予想され、それなら興味深い変更であるといえるだろう。

この他、ノーデやパタンが「最良のパンフレに属する」とし、モローも「彼ら[ノーデとパタン]は間違っていない。しかしこのパンフレは文体の正確さと強烈さで、特に注目に値すると付け加える必要がある」と同意する「国家神学者」(R36)<sup>59)</sup>、アンチ・ジャンセニストで有名なパンフレ作家、フィヤン会士ピエール・ド・サン＝ジョゼフによる『徴税請負人手引書』(モローも「大変注目すべきパンフレ」と形容している)<sup>60)</sup>、ノーデが「作家が一週間に一ピストルの条件で輪転機を回させる契約をした文書の典型の一つとする(『マスキュラ』、p.194)」前述『夜間幻視』<sup>61)</sup>など著名なマザリナードを数多く含むのがこの選集の特徴である。

### 3.3.3.4.「現代珍文書選集」第四卷

合本最後の選集は『現代珍文書選集』の第四巻で、R43 から R57 まで計 15 点の文書が収録されている<sup>62)</sup>。但し、目次に従うか、本文の体裁に従うかでたまたまや文書数が異なる。目次では R44 から R46 まで三文書が独立した扱いを受けているが、本文では連続して印刷されているため、一つの文書とみなすことも出来る<sup>63)</sup>。またモローの『書誌』では R44 に CM0897、R45 と R46 に CM2146 を割り当てているため、R44 と R45-R46 の二文書として扱うことも不可能ではない<sup>64)</sup>。その場合には計 14 点である。

モローの『書誌』に収録されていないのは R49 と R51 であるが、両文書共に「高等法院登録簿抜粋」であるため、他の高等法院登録簿集成に収録されているかもしれない<sup>65)</sup>、モローがありふれた文書とみなすのにも、十分な理由があったと思われる。また、公文書として題名を異にして印刷されている可能性も考えられよう。

各文書末尾に出版地が記されているわけでもなく、またすべての頁番号は連続しているため、再版選集であることは疑いないが、ただし、最後の R57 という文書のみ他の文書と比較して際立って小さな活字で印刷されている。紙幅の都合なのか、収集選集のための文書であるのか、詳細は判らない。

モローによると、R43 の文書<sup>66)</sup>は 1777 年に刊行されたレ枢機卿の『覚書』第六巻に収録されているようであるが、〈プレイヤド叢書〉版レ枢機卿全集には未収録である。1777 年版を確認できなかったが、おそらくはレの作品ではないのであろう。その他、この選集に収録されている文書に関して、モローの批判は手厳しい。かなり「スペイン使節の喜劇に続いて、或るフロンド派によるかなり貧しい想像力 [の産物]」(R44)<sup>67)</sup>、「ばかげた文書、珍しくはある」(R45)<sup>68)</sup>、「ノーデは偽の手紙に分類することを唯一の目的として引用している。…しかしながら面白みがないわけではない。とはいえ、この手紙は珍しくはない」(R47)<sup>69)</sup>など。また、偽の手紙を複数含むことも興味深い (R47, R48, R50)。これはフロンドの情勢で偽文書の頻度が高くなったのか、政治行為と結びつき地域化が意識された戦略の表れなのか。単なる書籍商の販売促進か。「フロンド期に繰り返し声高に叫ばれた」マザランに対する罵詈雑言を、如何にも秘密めかして「耳打ちで伝えられた語」と題し提示するパンフレ<sup>70)</sup>が収録されていることにも、この選集が読者戦略に無頓着であったとは到底考えられないのである。

以上要するに、センターの合本に含まれる四つの選集の中に、モローの眼を逃れ『書誌』から漏れたような文書はおそらく見当たらない。印刷された選集に稀少文書を探す必要はないだろう。だが、選集は別の、複数の問題を喚起する。選集内部で文書の選択とフロンドの情勢の関係を問いつつ出版戦略を探ることもできる。また複数の選集をつきあわせ、デュビュイッソン＝オーブネーやガブリエル・ノーデのリストと比較しつつ、リストまたはコレクションの「類型学」を築くこともできよう。選集や合本の研究は、マザリナード研究が個々の文書の読解にとどまらず、ジャンル研究や間テクスト性に関心を抱く文学と歴史学、そして文化社会学といった別の領域、他の分野とも共有しうる幅広い問題を喚起しているといえよう。

## おわりに 「検索コレクション」の可能性

以上が、センター所蔵マザリナードの調査報告となる。本冊子のような印刷媒体での調査報告は2009年現在の状態を反映するにすぎない。今後、センターに所蔵されている別の文庫から新たにマザリナードが発見される可能性もあるし、また蔵書の増加に伴い、マザリナードを故意に、または偶然に入手することも考えられよう。

2009年、学習会という枠組みの中で、センター職員と数回にわたり討論を重ね、マザリナードの提示と発信方法について相互に知識を深めることができた。現在センターでは、上記シンポジウムにおいて福島氏が触れていた67点についてはインターネットで検索できる電子情報の注記に「Mazarinades」と記載しており<sup>71)</sup>、これにより検索条件にMazarinadesと打ち込めば、現時点でのマザリナード全点の目録が表示される。センターではこれまで、受け入れ時の個人名を文庫の名として残すか、1850年以前の印刷物を「貴重書」としてまとめてきた。そうした従来方式に鑑みて、注記にMazarinadesと入れるだけで他の文庫同様に、マザリナードが一つのコレクションとして立ち上がるようになったのは画期的なことであると思われる。

マザリナードは現代に至るまで、コレクション・アイテムとして売買されてきた。一つ一つの文書は個人で購入できないほど高価なものではないが、金箔をふんだんに用いた革装丁の古書などは、かなりの金額でやり取りされる<sup>72)</sup>。個々の文書でも、17世紀の幻視者として注目されるフランソワ・ダヴアンのマザリナードなどは、非常に稀少で、そもそも市場に出てこないそうである。現在マザリナードを所蔵する機関は、貴重書としてコレクションを可視化し、その顕揚に務めてきた。幾つかのアメリカの図書館は共同でリストアップし、所蔵先を明記して目録化したし、ハーヴァード大学ホートン図書館は、既に1970年代には目録を出版し、世界的にコレクションの存在と意義を知らしめ、研究の便に供してきた<sup>73)</sup>。現在では、インターネット上で検索まで出来る。

インターネット検索の利点は検索地点に関わらず、所蔵の有無と状態を即座に把握できることである。これに対して印刷された目録の利点は、コレクションの全容を可視化し、辞書を繰るように、用途に応じて文書を探りあてることが可能な点である。その意味でホートン図書館が目録を印刷し、ネット上で検索も出来るようにしているのは、二つの媒体の利点を生かした方式である。

この度センターの<スタディ・シリーズ>が印刷物として発行されることで、所蔵の規模としては遥かに少ないながらも、形式的にはホートン図書館の方式を踏襲することになった。こうして世界的に知られていない文書を含むセンターの電子コレクションの全容が紙媒体で把握できるようになり、さらには「注記」にMazarinadesと入れるというだけの工夫で、インターネット上の検索と所蔵状態の把握も可能となった。センター内の様々な文庫に散在している文書が、インターネット検索と印刷目録の上で一つになり、「検索コレクション」が形成されたのである。

電子検索により一つの実体としてのコレクションが立ち上がる。これをここで仮に「検索コレクション」と命名するなら、このコレクションの最大の特徴は、検索する瞬間にコレクションの実体はその度に現れる点である。現時点、2009年12月には少なくとも67点のマザリナードが

リストアップされ提示される。同様に数年後、Mazarinades と入力すれば、その時の収蔵品の全体が目の前に現れる…。実体としての書誌乃至目録は「貴重さ」、「希少性」を再生産し、書籍商や愛書家の好奇心と所有欲を煽る。しかし「検索コレクション」とは、文書を必要とする人のための、実体化を伴わない提示法である。少なくともこうして、奢侈趣味としての収集（コレクション）概念から距離をとることができるのではないだろうか。

マザリナードは、出版当時に纏っていた政治行為から切り離され、語源からは想像もつかない意味でカテゴリー化された瞬間から、資料としての価値よりも市場価値を優先する価値体系に組み込まれていたのかもしれない。その時「稀少さ」ばかりが強調され、人々の所有欲と好奇心を際限なく煽り立てる結果となった。だが今必要なのは量を誇るのではなく、国境や文化に関係なく、何かを必要とする人々の手に「文学」を届くようにすることである。外国研究も自国文化も関係ない。ささやかながらも、この度の企画により、外国である日本からフランス乃至全世界に人文学の成果を発信できる、それを入用とする人々の許へ。こうしたセンターの試みと野心が世界の研究者の関心を惹くことを願って已まない。

2009年12月、了

\*本研究は文部科学省科研費（20720092）、若手研究(B)の助成を受けて実施されたものである。

#### 主要参考文献一覧

以下では本稿執筆及び二つの「一覧」を作成するにあたり、直接参照した文献のみを日本語、フランス語文献に分ち、発表の年代順に記載する。

- 1975 広田昌義、「フランソワ・ダヴェンヌ小論」、一橋大学語学研究室『言語文化』、1975、12号、pp.29-48.
- 1979 柴田三千雄、「マザリナード集成 Collection des Mazarinades」東京大学図書館月報『図書館の窓』、1979、第18号9、pp.80-81.
- 1998 二宮宏之、「マザリナード」in『世界大百科事典』（Hitachi Digital Heibonsha, 1998）。
- 2001 広田昌義、「ガブリエル・ノーデとマザリナードー『マスキュラ』批評版作成のための研究」（平成10-12年度科学研究費補助金－基盤研究(C)(2)研究成果報告書）、2001年3月。
- 2006 一丸禎子、『マザリナード文書とは何かーコーパスとしての東京大学コレクション』（東京大学大学院総合文化研究科言語情報科専攻博士論文、未刊行）。
- 2007 同、「2006年博士号取得者論文要旨 マザリナード文書とは何かーコーパスとしての東京大学コレクション」、『言語・情報・テキスト』、2007、vol.14、pp.146-148.
- 2009 野呂 康、「マザリナードの手続き」、武蔵大学総合研究所紀要、2009、No. 18、pp.221-232.
- 同、「共友空間の行為とエクリチュールー クリスチャン・ジュオーについて」in『論

考 クリスマン・ジュオー』、Edition Tiré-à-Part、kobe、2009（神戸大学仏語仏文学研究会、『EBOOK』第21号、2009、pp.111-136に再録。但し加筆有り）。

2010 同、「マザリナードの記述」、成城大学法学部『成城法学教養論集』（2010年、印刷中）。

以下は2009年10月3日、成城大学で開催されたシンポジウム「マザリナード：1648-1653 フランス17世紀の政治／文学表現」（企画：嶋中博章、野呂 康）における口頭発表及び映像紹介であり未だ活字化されていないが、本論を執筆する上で参照した成果を含んでいるため列挙しておく<sup>74</sup>。

2009 野呂 康、「マザリナード：歴史に働きかける政治文学」  
嶋中博章、「映像紹介『マザリナード：政治・文学の出来事』」  
ピエール・ブシュー、「マザリナード：政治・文学の出来事」（映像作品）  
福島知己、「一橋大学社会科学古典資料センターのマザリナード関連資料」  
内村奈緒美、中村美里、「東京大学附属図書館所蔵のマザリナードについて」

#### フランス語文献

- 1850 Célestin Moreau, *Bibliographie des Mazarinades*, Paris, Jules Renouard et C<sup>ie</sup>, 1850-1851, 3vol. (New York, Johnson Reprints, 1965 (筆者未確認)、New York, Burt Franklin, s.d., 4vol.)
- 1853 le même éd., *Choix de Mazarinades*, Paris, Jules Renouard et C<sup>ie</sup>., 1853, 2vols.
- 1859 Philippe Van der Heaghen, “Notes Biographiques sur les Mazarinades”, *Bulletin du bibliophile belge*, 1859 (repris dans C.Moreau, *id.*, vol.4).
- 1862 Célestin Moreau, “Suppléments à la *Bibliographie des Mazarinades*”, *Bulletin du bibliophile et du bibliothécaire*, Paris, J. Techener, 1862 (repris dans C.Moreau, *id.*, vol.4).
- 1869 le même, “Suppléments à la *Bibliographie des Mazarinades*”, *Bulletin du bibliophile*, pp.61-81.
- 1876 Emile Socard, “Supplément à la *Bibliographie des Mazarinades*”, *Cabinet historique*, t.XXII, 1876 (repris dans C.Moreau, *id.*, vol.4).
- 1903 Ernest Labadie, “Nouveau supplément à la *Bibliographie des Mazarinades*”, *Bulletin du bibliophile*, 1903 (et 1904?) (repris dans C.Moreau, *id.*, vol.4).
- 1972 Robert O.Lindsay and John Neu, *Mazarinades : A Checklist of Copies in Major Collections in the United States*, Metuchen, The Scarecrow Presse, 1972.
- 1974 Hubert Carrier, “Souvenirs de la Fronde en U.R.S.S. : les collections russes de Mazarinades”, *Revue historique*, no.511, juillet-septembre 1974, pp.27-50.
- 1976 James E.Walsh éd., *Mazarinades : A Catalogue of the Collection of 17th-Century French Civil War Tracts in the Houghton Library Harvard University*, Boston, G.K.Hall & Co., 1976.
- 1981 Richard M.Golden, *The Godly Rebellion - Parisien curés and the Religious Fronde, 1652-1662*, Chapel Hill, The University of North Carolina Press, 1981.
- 1982 Hubert Carrier éd., *La Fronde contestation démocratique et misère paysanne 52 mazarinades*,

- Paris, EDHIS, 1982, 2vol.
- 1985 Christian Jouhaud, *Mazarinades : La Fronde des mots*, Paris, Aubier Montaigne, 1985 (nouvelle édition, 2009).
- 1989 Hubert Carrier, *La Presse de la Fronde (1648-1653) : les Mazarinades*, Paris, Champion, 1989-1991, 2vol, < Histoire et civilisation du livre >.
- 1991 Robert Descimon et Christian Jouhaud, *La France du premier XVII<sup>e</sup> siècle 1594-1661*, Paris, Blin, 1991, < Histoire Blin Sup >.
- 1998 Tadako Ichimaru-Nishiura, “Les Fonctions du burlesque dans les Mazarinades - Analyse de *La Mazarinade* de Scarron”, in *Études de langue et littérature française*, no.72, Société japonaise de Langue et Littérature françaises, Librairie Hakusuisha, Tokyo, Japon, 1998.
- 2009 Bibliothèque Mazarine, Catalogue informatisé (<http://www.bibliotheque-mazarine.fr/index.html>).
- Tadako Ichimaru-Rebollar, “Mazarinades. La Collection de l’Université de Tokyo”, *Bulletin du bibliophile*, n°.1 juin 2009, pp.107-123.

---

1) 一丸禎子、「マザリナード文書とは何かーコーパスとしての東京大学コレクション」(東京大学大学院総合文化研究科言語情報科専攻博士論文、2006年審査終了、未刊行)。“concordance”で「同時代人の選集〔3053〕、1649年、一橋大学蔵」として、この文書のみ言及されている。

2) マザリナードの用語すら一般に浸透しているとはいえ、そうした現状に鑑みて、本年度「文部科学省科研費(20720092)、若手研究(B)」の助成を受け、幾つかの関連企画を催した。まず2009年10月3日に成城大学において、「マザリナード：1648-1653 フランス17世紀の政治／文学表現」と題したシンポジウムを開催した(嶋中博章・野呂 康企画・主催)。また、マザリナードの世界的権威であるフランス社会科学高等研究院のクリスチャン・ジュオー指導教官をフランスより招聘し、4回にわたり講演をしていただいた。さらに、一橋大学社会科学古典資料センターにて、「マザリナード特別展示」と題して、貴重な文書群の一端を公開した。おそらくこれまでにマザリナードが一般展示されたことはなく、職員の方々の協力を得て実現した展示会は興味深い企画であったといえる。

3) 野呂 康、「マザリナードの手続き」、武蔵大学総合研究所紀要(2009年度)、2009、No. 18、pp.221-232。あるいは、上述成城大学におけるシンポジウムでの発表「マザリナード：歴史に働きかける政治文学」。

4) H. Carrier, *La Presse de la Fronde(1648-1653) : les Mazarinades*, t. I, pp.16-17。以下註では、引用文献の表記を簡略化し、末尾参考文献においてより詳細な書誌情報を掲載する。

5) 日本語文献に限れば、一般的な定義に関しては二宮宏之氏による『世界大百科事典』の同名の項目を参照されたい(Hitachi Digital Heibonsha, 1998)。他に、以下の2つの文献には専門的で詳細な説明がみられる。広田(廣田)昌義、「ガブリエル・ノーデとマザリナードー『マスキュラ』批評版作成のための研究」(平成10-12年度科学研究費補助金ー基盤研究(C)(2)研究成果報告書)、2001年3月：前掲一丸「マザリナード文書とは何か」、2006、pp.17-21, pp.82-83。または前掲拙論、「マザリナードの手続き」、2009。

6) 東京大学コレクションの現「カタログ」では「マザラン誌」という題名がついている(請求記号なし)。購入時、コレクションに付随してきたカタログであるが、マザリナードにマザランに無関係の文書も含まれることを考慮して、今後別の名称を考案する必要があるだろう。

7) 前掲一丸論文に詳しい。同氏による以下の論文も有益である。Tadako Ichimaru-Nishiura, “Les Fonctions du burlesque dans les Mazarinades - Analyse de *La Mazarinade de Scarron*”, in *Études de langue et littérature française*, no.72, Société japonaise de Langue et Littérature françaises, Librairie Hakusuisha, Tokyo, Japon, 1998.

8) 我が国では慣用として「フロンドの乱」の呼称を用いているが、フランス語では語頭を大文字にして単に *La Fronde* という。以下で説明を試みるように、フロンドが複数の権力者間の勢力争いであったことを考えれば、王権に対して秩序を乱すフロンドという二項対立の図式を含意する「の乱」という呼称には再考の余地がある。

9) 高等法院、租税法院、会計法院、貨幣法院、大法院の五つ組織の総称。

10) キャリエによる前掲博士論文は、『フロンド期(1648-1653)の出版物：マザリナード』という題名からして既に定義となっている。この題名にあるように、従来、このカテゴリーに関連してなされた研究では、「出版物」(*presse*)すなわち印刷物のみが対象となり、手稿は扱われてこなかった。キャリエもこの姿勢を踏襲しているが、決して写本の存在や重要性を無視しているわけではなく、全く形式的な手続き上の問題である。幾つかのマザリナードが口ずさまれ人口に膾炙した事実に注目し、いつしか口承文芸と受容の関係を扱うフランス 17 世紀文学論が書かれることを期待したい。

11) Richard M. Golden, *The Godly Rebellion - Parisien curés and the Religious Fronde, 1652-1662*, Chapel Hill, The University of North Carolina Press, 1981.

12) R. Descimon et Ch. Jouhaud, *La France du premier XVII<sup>e</sup> siècle 1594-1661*, pp.152-153.

13) *Jugement du défunt Roi Louis XIII sur la conduite de Son Altesse Royale* (モローの『書誌』未収録、マザリヌ図書館 M11096)。これはキャリエが用いた例であり、筆者は文書を確認していない。V. H. Carrier, *La Presse de la Fronde ... op.cit.*, t. I, p.309.

14) 前掲廣田「ガブリエル・ノーデとマザリナード」、pp.4-5。この論文では「広田」と表記されているが、現在は「廣田」とされているようなので、引用する際には旧字に統一する。

15) Célestin Moreau, *Bibliographie des Mazarinades*, Paris, Jules Renouard et C<sup>ie</sup>, 1850-1851, 3vol. 以下、モローの『書誌』から引用する場合は、書肆パート・フランクリンによるリプリント版を用いることとし(本稿註 24 を参照)、CM3035 のように、モローの頭文字と四桁の数字で引用する。

16) 『マザリナードの歴史的・批評的書誌』(*Bibliographie historique et critique des Mazarinades*) の題名で予告され、博士論文と同時進行させていたらしい。v. H. Carrier, *La Presse de la Fronde... op.cit.*, t. I, p.29 ; H. Carrier éd., *La Fronde contestation démocratique et misère paysanne 52 Mazarinades*, Paris, EDHIS, 1982, 2vol., t. I, p.IV. キャリエの「書誌」作成作業は、モローをベースにしたマザリヌ図書館司書ダルトワによる目録に、文書の訂正・追加・排除をしてゆくものであったそうである(一丸前掲博士論文、第 2 部、p.113)。

17) 実際の手続きに関しては、前掲の拙論「マザリナードの手続き」を参照されたい。

18) 廣田昌義氏が一橋大学で教鞭をとられていた際に、「数点のマザリナード」を購入された由を伺っていたため、その前後数年も含め、1970 年代から 80 年代にかけて収蔵された書籍を対象とし調査した。もちろん調査範囲を広げれば、新たなマザリナードが発見される可能性もある。

19) 上記シンポジウムにおいて、センター職員である福島知己氏が発表した数値(福島知己、「一橋大学社会科学古典資料センターのマザリナード関連資料」)。氏は発表の中で詳細に、これらマザリナードの刊行年ごとの出版点数、地域別、発行者別、内容別の統計を示し、さらには所蔵品とモローの『書誌』との比較にまで踏み込んでいる。本文での数値と分類はおおよそ氏の発表に従う。

20) H124 : *Illustres Cardinales Armandus. D. de Richelieu et Mazarinus, Regum Francie Ludd. XIII. & XIV. consilarii intimi, sive, Secretissima instructio et historia universalis ab anno 1624. usque ad haec tempora, de ministeriis, consultationibus, negotiationibus, literis, scriptis, confederationibus, ac demum machinationibus in materia status contra universam Domum Austriacam, per Italiam, Sabaudiam, Rhetiam,*

*Lotharingiam, Flandriam, & alias dynastias peractis : cum observationibus politicis ad quelibet capita : opus Gallicum Latinitate donatum.* -- Impensis Joh. Godofredi Schönwetteri : Typis Joh. Friderici Weissii, anno 1652. [10], 1261 [i.e. 1259], [37] p., 17 cm (Mazarinade inconnue). 福島氏の発表に拠れば、これはアントワヌ・オブリ『リシュリユー枢機卿伝』(Antoine Aubery, *Histoire du cardinal de Richelieu*) とシヨンの『マザラン枢機卿の行政に関するいくつかの困難の解明』(Jean de Silhon, *Eclaircissement de quelques difficultés touchant l'administration du cardinal Mazarin*, 1650) という二つのテキストのラテン語訳である。後者、それもフランス語版のみ、モローの『書誌』に記載されている(CM1181)。ラテン語訳としては、モローは1662年に出版された版に言及しているにすぎない。ちなみにセンターには1667年版5巻本の『リシュリユー枢機卿伝』、及びシヨンのテキストのドイツ語版とイタリア語版が収蔵されているそうである(すべて福島氏の発表に基づく)。

21) 以下、本論で扱うセンター所蔵マザリナードには、本稿末尾に付した「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵マザリナード一覧(2009年)」で用いた通し番号を付す(H001-H110)。一橋大学の頭文字(H)に三桁の数字がそれである。なお通し番号は筆者が便宜上つけたもので、センターで採用されている請求記号や目録とは何ら関係がない。

22) 福島氏はおそらく『高等法院登録簿抜粋』の1点(H046)にはその他の文書のように、「\*月\*日、トゥールーズ高等法院にて」という記述が見当たらないために、これを除いて7点と計算されたことと推察するが、明らかに前後の文書と同系統であるため、ここでは8点とし、合計を18点としておく。

23) 前掲拙論「マザリナードの手続き」、p.225.

24) New York, Johnson Reprints, 1965 (筆者未確認)、及び New York, Burt Franklin, s.d., 4 vol.

25) 古書籍商バート・フランクリンとモローの『書誌』との関係にいち早く気づかれ、私信において筆者に示唆してくださったのは廣田昌義先生である。

26) 但し、キャリエが「貼紙」の意味で用いた語は « placard » である。H. Carrier, *La Presse de la Fronde... op.cit.*, t.I, pp.344-345.

27) H100-H103の4文書が一冊にまとめられている。センターの分類番号は「フランクリン文庫2289」である。

28) H. Carrier, *La Presse de la Fronde... op.cit.*, t.II, pp.268-269.

29) 前掲廣田「ガブリエル・ノーデとマザリナード」(pp.5-7)では、このような「選集」を「集録本」と呼ぶ。また、文書の題名だけを列挙した「カタログ」も、当時販売されていたことが記されている。このような「カタログ」は、「マザリナード」[の題名のみ]を列挙した、実体のない、リストとしての「マザリナード」である。

30) キャリエが引用したもの(H. Carrier, *La Presse de la Fronde... op.cit.*, t.II, pp.268-269)。1649年4月2日付ギー・パタンの手紙からの抜粋。

31) Christian Jouhaud, *Mazarinades - La Fronde des mots*, Aubier-Flammarion, Paris, 2009, la deuxième édition (la première édition sortie en 1985), p.XVII. 現在、エレオノール・セルデツニ氏(Éléonore Serdeczny)が、デュビュイッソン＝オーブネーのコレクションに関して博士論文を準備していることが記されている。

32) 通常、テキストの登場人物の名前をとって、『マスキュラ』と呼ばれる。初版(492p.)は250部と極めて少なかったため、これ自体稀覯本である。第二版(718p.)は大幅に増補されている。廣田氏による前掲論文(「ガブリエル・ノーデとマザリナード」)には、マザリナードの定義と解説に加えて、初版の全文が収録されている。

33) ここでも選集の区分については、廣田昌義先生の御教示による。

34) 前掲廣田「ガブリエル・ノーデとマザリナード」。

35) C. Moreau, *op.cit.*, t.3, pp.22-29. CM3034からCM3055までの題名が選集に該当する。但し、CM3039はクロード・ジョリのマザリナードであり選集ではないため、「文書集成...」の題名では合計21とな

る。このうち頁数が記されておらず、収録文書に関して何ら注記がない選集が11点、収録文書のない表紙または序論のみの選集が3点である。

36) センター所蔵の合本選集に関しては、本論末尾に示したマザリナード一覧の他に、選集合本のみの題名一覧を付した(「古典資料センター所蔵 マザリナード選集合本内容一覧(2009年)」)。本文中で説明を試みたように今後の効用を念頭に、多少の煩瑣は覚悟して、この一覧の文書には「R[ecueils]の頭文字と二桁の数字」、文書題名の末尾にはモローの『書誌』番号(「CM+四桁の数字」)とマザリナード一覧で付した通し番号(「H+三桁の数字」)を合わせて提示する。

37) H100 : *Recueil des pièces secrètes de ce temps*, [s.l.], 1649 (CM3053、フランクリン文庫2289)。

38) 第二巻の題名は以下のとおりである。*Second recueil des pièces secrètes de ce temps*, [s.l.], 1649. センターには「現代の秘められたる文書選集」第二巻、及び以下で取り上げる『現代珍文書選集』第一巻のオリジナル版は収蔵されていないが、これらの文書を所有する廣田昌義氏が全文を複写しセンターに寄贈されたため、二種類の『選集』全体を利用できる。

39) CM1178

40) *Echo de la France*. しばしば、目次と本文の題名は微妙に異なる。「マザリナード選集合本内容一覧(2009年)」ではすべてのヴァリエーションに註で言及する。

41) モローは「終始文書の選択が悪い」と書くが、例えば『現代の秘められたる文書選集』の第二巻には「ミシェル神父の手紙」という、パタンが激賞した文書が収録されている。*Lettre du père Michel...* (CM2128). パタンの評価はモロー自身が引用しているし、またノーデや、フロンドに関する最初の歴史記述の一つ、18世紀のマイイによる『フロンド精神』でのコメントにも言及している (Joseph-Augustin Mailly d'Haucourt (1708-1794))。要するに、内容の良し悪しというのはあくまで選者の基準を示すか、または後世の読者の主観にすぎない。本論では貴重さを判断基準とする「収集家」の価値観同様、文書の出来・不出来には踏み込む必要がないと思われる。

42) モローは『マザリナード選集』の編者でもある。モローはフロンドの同時代選集を批判しつつ、それでもその存在が「稀少」であることは認める。「これらの選集の出来は悪く、批判性もない。そもそもほとんどフロンドの最初三ヶ月の文書しか収録していない。最後に、こうした選集は大変稀少である。」(C. Moreau, *Choix de Mazarinades*, Paris, Jules Renouard et C<sup>ie</sup>., 1853, 2vols, pp.IV-V) モローが「稀少」性に関してコメントを付け加えるのは、それこそ珍しくない。

43) H101 : *Second recueil des pièces curieuses de ce temps*. Sur l'imprimé à Paris, Rouen, par les imprimeurs de la Cour, 1649, 80p., 24 cm, avec permission (CM3035、フランクリン文庫2289)。但し、モローの『書誌』では題名において、「文書」の前に「各種」(diverses)がつく。これはおそらくモローの誤記であろう。マザリヌ図書館のカタログにも「各種」はついていない。マザリヌ図書館では、該当する文書をCM2851としているが(M 15075, M 10249-2, M 10539)、これはモローが同一文書を二度掲載しているため、CM3035とCM2851は同じである。ちなみにマザリヌ図書館のマザリナードには、「M」を頭に五桁の数字の分類記号が付されている。

44) マザリヌ図書館のサイト上の電子検索による(2009年11月28日時点)。

45) Sur l'imprimé à Paris. A Rouen, par les Imprimeurs de la Cour. Avec Permission. 但し、前述のR016-R019までは末尾一箇所には入らない。またR024、R029にはこの記述が入らない。とはいえR025は直前の文書の裏側に印刷されているから、やはり収集選集ではなく、同時に印刷されたものであることは間違いない。

46) R16 : *La Réception faite à messieurs les gens du roi à Saint-Germain-en-Laye*, p.1. 選集合本におけるR16-R19は、総合一覧において、それぞれH098, H052, H099, H070に該当する。

47) *Le Courrier extraordinaire, apportant les nouvelles de la réception de messieurs les gens du roi à Saint-Germain-en-Laye, et de celle du courrier d'Espagne au palais ; avec toutes les harangues qui ont été faites*, Paris, Rollin de la Haye, 1649, 8p. (CM0827)。東京大学総合図書館に収蔵されている版と比

較し、確認することができた (T:C-01-042)。東京大学所蔵「マザリナード集成」は A から E まで 5 つの異なる収集品からなる 3000 点近いマザリナードで、「各コレクションの頭文字(A-E)+巻数+収録された文書の番号」という形で、分類記号が付されている。本稿では便宜上、東京大学を表す T を分類番号の頭に付した。現時点では公式の目録が存在せず、文書検索乃至用語検索が出来る状態にないため、当該の文書にたどり着くのはほぼ不可能である。但しモローの番号からなら、一丸氏が作成し上述の博士論文に付した対照表を頼りに探し当てるのも不可能ではない。

<sup>48)</sup> R21 : *Les Dernières paroles de monsieur le duc de Châtillon, mourant, à monsieur le Prince [de Condé]*. Sur l'imprimé à Paris, à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM1036). この文書なら東京大学にも保管されている(T:B-06-045)

<sup>49)</sup> R22 : *Discours d'État et de religion, à messieurs du parlement*. Sur l'imprimé à Paris, à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (H030).

<sup>50)</sup> CM1106; M12813; T:C-07-37. 東京大学に C コレクションには全四部がそろっている他(T:C-07-36 から T:C-07-39)、A コレクションには第一部と第三部(T:A-02-033)、B コレクションには第一部のみ(T:B-04-11)、保管されている。

<sup>51)</sup> R30 : *L'Ombre du grand Armand cardinal [duc] de Richelieu, parlant[e] à Jules Mazarin*. A Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission.

<sup>52)</sup> H102 : *Troisième recueil des pièces curieuses de ce temps*, Rouen, Jean Berthelin, 1649, 96p., 24 cm, avec permission (CM3035). マザリヌ図書館では CM2851 に分類している(M15076, M10249-3)。

<sup>53)</sup> CM4043

<sup>54)</sup> 但し、R34, R35, R37, R40 の各末尾には、以下のように印刷地が明記されている。“Jouxte la Copie imprimée à Paris. A Rouen, chez Jacques Besongne dans la Cour du Palais. Avec Permission”。

<sup>55)</sup> R33 : *Les Généreux conseils d'un gentilhomme françois qui a quitté le parti des mazarins*, p.17 (CM1485).

<sup>56)</sup> R34 : *Lettre envoyée à quelques villes de Champagne et Picardie pour les inciter à prendre le [bon] parti du roi et du parlement*. Jouxte la copie imprimée à Paris. A Rouen, Jacques Besongne dans la cour du palais, avec permission.

<sup>57)</sup> CM1817 : *Lettre circulaire, contenant un charitable avis à quelques villes de Champagne et Picardie, pour les inciter de se résoudre à prendre le bon parti du roi, et du parlement. Du 12 fév. 1649*, Paris, François Preuveray, 1649, 7p. 東京大学にも収蔵されている(T:A-05-073, T:C-03-055, T:D-02-012)。

<sup>58)</sup> CM3334 : *Remontrances à la reine régente sur le gouvernement de l'État*, Paris, Arnould Cottinet, 1649, 8p (T:C-09-45).

<sup>59)</sup> R36 : *Le Théologien d'État* (CM3769, CM3770).

<sup>60)</sup> R37 : *Catéchisme des partisans, résolutions théologiques, touchant l'imposition, levées et emploi des finances. Dressé par demandes et réponses pour plus grande facilité. Par le R.P.D.P.D.S.I.* Sur l'imprimé à Paris. A Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM0652). 筆者が最初にマザリナードに関心を抱いたのは、ジャンセニスム運動における論争の激化とフロンド期のパンフレの増加が同時代現象であったためである。当時制度としてはほぼ確立されていた王権による出版統制を真っ向から否定するこの二つの運動の接点を探るのに、アンチ・ジャンセニスムの論争文書とマザリナードの両方を手がけていたピエール・ド・サン＝ジョゼフによるこのパンフレは大変興味深い。

<sup>61)</sup> R40-R42 : *Les Visions nocturnes de M. Mathurin Questier* (CM4043). 全六部構成で、モローは第六部が第五部の転載としているが、実際にはパンフレに含まれる 27 の「幻視」に重複は無い。これも廣田氏が全六部の複写をセンターに寄贈されたおかげで、確認することができた。

<sup>62)</sup> H103 : *Quatrième recueil des pièces curieuses de ce temps*, Rouen, Jean Berthelin, 1649, 92p., 24 cm, avec permission (CM3035). M15077, M10249-4.

63) マザリヌ図書館ではこの計算法で計 13 点としている。

64) CM0897(R44), CM2146(R45-R46).

65) 例えばモローが「フロンド法典」と呼ぶ CM3046 や CM3049 のような文字通り「文書集成」に含まれているかもしれない。筆者はこれらの実物は確認できなかった。

66) R43 : *Procès verbal de la conférence faite à Ruel, par messieurs les députés du parlement, chambre des comptes et cour des aides, ensemble ceux de la ville* (CM2892).

67) R44 : *Déclaration du duc Charles, faite à messieurs du parlement en faveur de la France* (CM0897).

68) R45 : *Lettre du roi d'Espagne envoyée aux parisiens, touchant les motifs de la paix générale* (CM2146).

69) R47 : *Lettre de Pierre de Provence à la reine. En forme d'avis, sur ce qui s'est passé en son pays* (CM2043).

70) R55 : *Le Mot à l'oreille, ou le miroir qui ne flatte point* (CM2498).

71) マザリヌ図書館でも同方式を採用しているが、インターネット上でヒットするのはなぜか 4103 点である (2009 年 12 月 15 日現在)。また、この検索法ではどのような基準で配列がなされているのかわからない。これに対してセンターでは、検索時に「Mazarinades」と打ち込めば、出版年の新しい順に表示されるようになった。出版年の同じものに関しては、「書誌 ID」順、すなわち受け入れ順に配列させる。また、検索時に「検索オプション」で「並び順」を設定すれば、「書名」「著者名」「出版年」「出版者」「貸出回数」の順に表示することが可能である。

72) 例えば東京大学総合図書館が 1978 年に購入した「マザリナード集成」は、当時の金額で 4000 万円を超える。そもそも五つの由来を異にするコレクションからなる東大所蔵品は当時国家間の問題となっていた貿易黒字の解消を目的としていたといわれ、個人の趣味の枠組みを遥かに超え、国家予算で購入された、文字通り政治文書である。

73) James E. Walsh éd., *Mazarinades : A Catalogue of the Collection of 17th-Century French Civil War Tracts in the Houghton Library Harvard University*, Boston, G.K.Hall & Co., 1976.

74) シンポジウム午後に行われた、クリスチャン・ジュオー氏による講演、廣田昌義氏、嶋中博章氏、及び筆者によるフランス語の発表に関して、この場では詳細を省略するが、マザリナード論集として発表したいと考えている。特に 17 世紀の幻視者フランソワ・ダヴァン、レ枢機卿、ジャンセニストであるアマブル・ブルゼイスに関する各論は、今後のマザリナードの効用を示す上で重要なものであった。また、クリスチャン・ジュオー氏来日にあわせ、神戸大学の中畑寛之氏が企画出版した『論考クリスチャン・ジュオー』(題名のみ前掲) 所収の諸論文の翻訳と解説も多くの有益な示唆を含んでいる(神戸大学仏語仏文学研究会、『EBOK』、第 21 号、2009 に再録された)。

## 一橋大学社会科学古典資料センター所蔵 マザリナード一覧（2009年）

### 作成上の留意点

- － 以下は、2009年12月時点での調査に基づく、一橋大学社会科学古典資料センター所蔵マザリナードの一覧である。
- － 文書は一橋大学の「頭文字(H)と三桁の数字」で表し、便宜上以下の2点と複本・副本類を除いてすべてアルファベット順に配列する。2点とはH123とH124の文書である。前者は文書の版型等、マザリナードかどうか見解の分かれるものであるため、後者はラテン語の文献が唯一であるための措置である。なお、通し番号は作成者の方針に従い付したもので、センターで採用されている目録表記や請求記号とは何ら関係がない。
- － 複本（文書の重複）または複数の続編がある文書に関しては、関連の判るように最初の文書に続けて配置した。
- － 編集の主眼は、すべての参照可能な文書を列挙することにある。したがって、合本や選集に含まれる文書はすべて個別の文書として掲載した。但し、それらが選集に含まれる文書で、オリジナル版ではないことを明示するため、文書題名の冒頭に「\*」を付した。
- － また、選集はそれ自体も個別のマザリナードとして計算されるため、選集の数だけ（4点）二重に勘定される。効用を考えた上での、便宜上の措置である。
- － 選集に関しては、個々の文書の頁数、出版地等の情報は原則として掲載しない。
- － 題名には検索と配列の利便性を考慮して、現代フランス語表記を採用することとした。この点専門司書と意見の分かれるところであり、あくまで作成者の方針に拠る。
- － 「Mazarinade inconnue」（「未知のマザリナード」）とは、拙論「マザリナードの手続き」（末尾参考文献一覧を参照）及び本論考解説で提示した文書調査の手続きを踏まえ、印刷物及びインターネット検索をしても、今現在（2009年12月）他所で発見することの出来なかった文書を指す。

### 提示例

- 1)
- |            |                                                                                                                            |                 |      |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|------|
|            | 選集に含まれる文書                                                                                                                  | 当該文書を含む選集番号     | 請求記号 |
|            | *Adieu de Jules Mazarin à Monsieur le Prince, et la réponse qu'il lui a faite. [pour l'empêcher de partir] (CM0039(H100)). |                 |      |
| H001       |                                                                                                                            | Franklin : 2289 |      |
| 作成者による通し番号 | 字句に異同がある場合に注記する                                                                                                            | モローの『書誌』掲載番号    |      |

- 2) 原典では「Arrest」 現在のところ他所では確認されていない文書

H005 Arrêt du parlement de Toulouse, donné aux chambres assemblées le 11 mars 1651. Portant cassation d'un prétendu arrêt donné par les officiers de la chambre des comptes et aides de Montpellier, le 6 dudit mois, [s.l.n.d.] [1651], 10p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin: 12231

表紙には出版地、出版年が記載されていないが、記述から明らかな場合

略号一覧：

H=一橋大学 (Université Hitotsubashi)

M=マザリヌ図書館の『電子カタログ』上での請求記号 (Catalogue informatisé de la Bibliothèque Mazarine)

T=東京大学総合図書館所蔵文書の請求記号 (Université de Tokyo)

CM=セレストン・モローの『書誌』掲載番号 (Célestin Moreau, *Bibliographie des Mazarinades*)

CMadd1.=モロー『書誌』への「第一補遺」掲載番号 (Célestin Moreau, *Bibliographie des Mazarinades*, la première addition)

R=選集 (Recueil) 収録文書 (別途作成した「マザリナード選集合本内容一覧 (2009年)」を参照)

\*\*\*

H001 \*Adieu (l') de Jules Mazarin à Monsieur le Prince, et la réponse qu'il lui a faite.[pour l'empêcher de partir]<sup>1)</sup> (CM0039 (H100)).

Franklin : 2289

H002 \*Apparitions (les) épouvantables [*sic.*] de l'esprit du marquis d'Ancre, venu par ambassades à Jules Mazarin. Le Marquis d'Ancre, en ombre parlant par esprit (CM0144<sup>2)</sup> (H100)).

Franklin : 2289

H003 Arrêt de la cour du parlement de Bordeaux : pour<sup>3)</sup> la justification de Mr le Prince : sur le sujet des calomnies inventées contre Son Altesse par les factionnaires du cardinal Mazarin, pour le faire sortir de Paris, et faciliter le retour de leur maître. Ensemble les remontrances du même parlement faites au roi sur ce sujet, et les lettres écrites à la reine régente, à Mr le duc d'Orléans,

et à Mr le Prince, Paris, [sans éditeur], 1651, 12 p., 23cm<sup>4)</sup> (CM0192).

Franklin : 12106

H004 Arrêt de la cour de parlement de Toulouse, donné aux chambres assemblées, le 15 février 1651. Portant cassation des délibérations des états de la province de Languedoc, des 15 novembre, 5 et 9 janvier derniers, [s.l.n.d.] [1651], 8 p., 23cm (CM0353).

Franklin : 12221

H005 Arrêt du parlement de Toulouse, donné aux chambres assemblées le 11 mars 1651. Portant cassation d'un prétendu arrêt donné par les officiers de la chambre des comptes et aides de Montpellier, le 6 dudit mois, [s.l.n.d.] [1651], 10p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 12231

H006 Arrêt de la cour de parlement de Toulouse, du 18 avril 1651. Portant que très-humbles remontrances seront faites au roi, et à la reine régente sa mère, sur le sujet de l'arrêt du conseil du 28 mars dernier, et infraction de la déclaration du mois d'octobre 1648. Et cependant que les arrêts dudit parlement seront exécutés, [s.l.n.d.] [1651], 8 p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 12226

H007 Arrêt de la cour de parlement de Toulouse, donné chambres assemblées, le 29 avril 1651. Portant surséance aux impositions extraordinaires de la présente année ; Et règlement entre les receveurs généraux des finances du roi, et trésoriers de la bourse de la province de Languedoc, [s.l.n.d.] [1651], 8 p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 12225

H008 Arrêt de la cour de parlement de Toulouse, donné chambres assemblées, le 22 mai 1651. Contenant que très-humbles remontrances seront faites au roi, et à la reine régente sa mère, sur l'arrêt du conseil du 10 du présent mois, et cependant qu'il sera sursis à l'exécution d'icelui ; Et que les arrêts de la cour des 15 février 11 mars, 18 et 29 avril seront exécutés, [s.l.n.d.] [1651], 7p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 12222

H009 Arrêt de la cour de parlement de Toulouse, donné chambres assemblées, le 22 mai 1651. Portant cassation de plusieurs impositions faites aux assiettes tenues au diocèse d'Alby ; Et que l'évêque dudit Alby fera remettre sur les portes de la ville d'Alby les armoiries du roi qu'il en avait fait ôter ; néanmoins que ledit évêque sera ajourné à comparoir en personne, et les nommés Dumas, Saluan et Pech seront prins [*sic.*] au corps, [s.l.n.d.] [1651], 8 p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 12223

H010 Arrêt de la cour de parlement de Toulouse, toutes les chambres assemblées, le 10 juin 1651. Portant que sans s'arrêter à l'arrêt du conseil du 19 mai, très-humbles remontrances seront faites au roi, et à la reine régente sa mère, sur celui du 22 dudit mois, à ce qu'il lui plaise soulager son peuple ; et cependant sous son bon plaisir, qu'il sera sursis à l'exécution d'icelui, et que l'arrêt du 29 avril, et autres dudit parlement seront exécutés selon leur forme et teneur, [s.l.n.d.] [1651], 8 p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 12227

H011 — Arrêt de la cour de parlement de Toulouse, toutes les chambres assemblées, le 10 juin 1651. Portant que sans s'arrêter à l'arrêt du conseil du 19 mai, très-humbles remontrances seront faites au roi, et à la reine régente sa mère, sur celui du 22 dudit mois, à ce qu'il lui plaise soulager son peuple ; et cependant sous son bon plaisir, qu'il sera sursis à l'exécution d'icelui, et que l'arrêt du 29 avril, et autres dudit parlement seront exécutés selon leur forme et teneur, [s.l.n.d.] [1651], 4+p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 12228<sup>5)</sup>

H012 Arrêt de la cour de parlement de Toulouse, donné chambres assemblées, le 28 juin 1651. Portant remontrances au roi, et à la reine régente sa mère, sur le sujet de l'arrêt du conseil du 12 dudit mois ; et cependant que les arrêts dudit parlement seront exécutés, [s.l.n.d.] [1651], 4 p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 12224

H013 \*Avis d'un bon père hermite donné à un autre sur les malheurs du temps. Sur l'imprimé à Paris. A Rouen, Jacques Besongne dans la cour du palais,

avec permission (CM0501 (H102)).

Franklin : 2289

H014 Avis de monseigneur le coadjuteur prononcé au parlement, pour l'éloignement des créatures du cardinal Mazarin le 12 juillet 1651, Paris, veuve J. Guillemot, 1651, 8 p., 22cm (CM0506).

Franklin : 12760

H015 \*Avis sur l'État (CM0548 (H101)).

Franklin : 2289

H016 Catéchisme des partisans, ou résolutions théologiques touchant l'imposition, levées et emploi des finances. Dressé par demandes et réponses pour plus grande facilité. Par le R.P.D.P.D.S.I., Paris, Cardin Besongne, 1649, 32p., 22cm, avec permission (CM0652).

Menger/Fr. : 695<sup>6)</sup>

H017 — Suite du Catéchisme des partisans, ou des résolutions théologiques : touchant l'imposition, levées et emploi des finances. Par M.I.B.D.E.T.E.R.O.D.P.M., Paris, [sans éditeur], 1649, 32 p., 22cm (CM0652)<sup>7)</sup>.

Menger/Fr. : 695<sup>8)</sup>

H018 — Catéchisme des partisans, ou résolutions théologiques touchant l'imposition, levées et emploi des finances. Dressé par demandes et réponses pour plus grande facilité. Par le R.P.D.P.D.S.I., Paris, Cardin Besongne, 1649, 32p., 22cm., avec permission (CM0652).

Franklin : 1599<sup>9)</sup>

H019 — Suite du Catéchisme des partisans, ou des résolutions théologiques : touchant l'imposition, levées et emploi des finances, par M.I.B.D.E.T.E.R.O.D.P.M., Paris, [sans éditeur], 1649, 32 p., 22cm (CM0652).

Franklin : 1599<sup>10)</sup>

H020 — \*Catéchisme des partisans, [résolutions théologiques, touchant l'imposition, levées et emploi des finances. Dressé par demandes et réponses pour plus grande facilité. Par le R.P.D.P.D.S.I.] Sur l'imprimé à Paris. A Rouen, par les

imprimeurs de la cour, avec permission (CM0652 (H102)).

Franklin : 2289

H021 Changement (le) d'État sur la majorité du roi. Présenté à Sa Majesté avant son auguste sacre et couronnement, Jean Brunet, 1651, 11p., 22cm (CM0680).

Franklin : 11744

H022 \*Contents (les) et mécontents sur le sujet du temps (CM0782 (H103)).

Franklin : 2289

H023 \*Contrat de mariage du parlement avec la ville de Paris. Imprimé à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM0783 (H101)).

Franklin : 2289

H024 \*Court-bouillon (le) de Mazarin assaisonné par toutes les bonnes villes de la France (CM0837 (H100)).

Franklin : 2289

H025 Déclaration (la) de Son Altesse Royale sur le sujet du discours lu au Palais Royal, en présence des députés du parlement, chambre des comptes, cour des aides, et corps de ville de Paris, sous le nom du roi, et de la reine régente. Ensemble la réponse de Monsieur le Prince présentée au parlement, les chambres assemblées le 19 août 1651, Paris, Nicolas Vivenay, 1651, 16 p., 23cm (CM0890).

Franklin : 11681

H026 \*Déclaration du duc Charles, faite à messieurs du parlement en faveur de la France<sup>11)</sup> (CM0897 (H103)).

Franklin : 2289

H027 Déclaration du roi du mois d'octobre 1648 et lettres portant ampliation d'icelle, des 22 décembre et 14 juin derniers, sur le fait de la justice, police et finances, et soulagement des sujets de Sa Majesté : registrées au parlement de Dauphiné le 16 juillet 1649, Grenoble, Antoine Verdier 1649, 13p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 14124

H028 Déclaration du roi, portant révocation de toutes commissions extraordinaires, même de celles des intendants de justice ès provinces du royaume. Avec décharge à ses sujets des restes des tailles avant l'année 1647, et remise d'un demi quartier d'icelles, pour les années 1648 et 1649 : vérifiée au parlement de Dauphiné le 7 août 1648, [s.l.n.d.] [1648], 4p., 23cm (Mazarinade inconnue)<sup>12)</sup>.

Franklin : 14123

H029 \*Dernières (les) paroles de monsieur le duc de Châtillon, mourant, à monsieur le Prince [de Condé]<sup>13)</sup>. Sur l'imprimé à Paris, à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM1036 (H101)).

Franklin : 2289

H030 \*Discours d'État et de religion, à messieurs du parlement. Sur l'imprimé à Paris, à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM1106 (H101))<sup>14)</sup>.

Franklin : 2289

H031 Discours libre et véritable sur la conduite de Monseigneur le Prince, et de monseigneur le coadjuteur, [s.l.], 1651, 24 p., 23cm (CM1127).

Franklin : 12761

H032 Discours : que le roi et la reine régente, assistés de monseigneur le duc d'Orléans, des princes, ducs, pairs, officiers de la couronne et grands du royaume. Ont fait lire en leurs présences aux députés du parlement, chambre des comptes, cour des aides et corps de ville de Paris, au sujet de la résolution qu'ils ont prise de l'éloignement pour toujours du cardinal Mazarin hors du royaume, et sur la conduite présente de Monsieur le Prince de Condé, le 17 jour d'août 1651, Paris, Par les imprimeurs et libraires ordinaires du roi, 1651, 8p., 23cm., avec privilège de sa Majesté (CM1142).

Franklin : 12240

H033 – Discours : que le roi et la reine régente, assistés de monseigneur le duc d'Orléans, des princes, ducs, pairs, officiers de la couronne et grands du royaume. Ont fait lire en leurs présences aux députés du parlement, chambre des comptes, cour des aides et corps de ville de Paris, au sujet de la résolution qu'ils ont prise de l'éloignement pour toujours du cardinal Mazarin

hors du royaume, et sur la conduite présente de Monsieur le Prince de Condé, le 17 jour d'août 1651, Paris, Par les imprimeurs et libraires ordinaires du roi, 1651, 8p., 23cm., avec privilège de sa Majesté (CM1142)<sup>15)</sup>.

Franklin : 12241

H034 \*Écho de la France troublée par le déguisé Mazarin, représenté par la figure d'un ours. Ah ? [*sic.*] quot sunt mihi facinora notata ? [*sic.*] (CM1178 (H100))<sup>16)</sup>.

Franklin : 2289

H035 — \*Autre écho de la France<sup>17)</sup> (CM1178 (H100)).

Franklin : 2289

H036 Épilogue, ou dernier appareil du bon citoyen, sur les misères publiques, [s.l.], 1649, 11p., 21cm (CM1264).

Menger/Fr. : 1722

H037 État général du revenu<sup>18)</sup> du royaume de France<sup>19)</sup>, [s.l.], 1649, 11p., 21cm (CM1300).

Menger/Fr. : 1110 : 1

H038 \*Extrait des registres de la cour de parlement<sup>20)</sup> (Mazarinade inconnue (H103)).

Franklin : 2289

H039 — \*Autre extrait de la cour de parlement<sup>21)</sup> (Mazarinade inconnue (H103)).

Franklin : 2289

H040 Extrait des registres de parlement : (vu la requête présentée par le syndic des particuliers habitants des villes et lieux du diocèse d'Uzès, disant que depuis l'année 1636 jusques à présent, ledit diocèse aurait été gouverné par certains particuliers monopolés habitants de la ville d'Uzès et Monfrin ...) [prononcé à Toulouse en parlement le 23 septembre 1648] ; Extrait des registres de parlement : (vu la requête présentée par le syndic des particuliers habitants des villes et lieux du diocèse d'Uzès, contenant que sur la plainte qu'il porta à la cour des malversations commises dans ledit diocèse par les

extraordinaires impositions et levée des deniers ....)[Fait à Toulouse en parlement le 6 mai 1651], [s.l.n.d.] [1651], 4p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 18774

H041 Extrait des registres de parlement : (sur la requête verbalement faite par le procureur général du roi, disant que sur l'arrêt du conseil du 18 mars dernier, donné sur la requête du syndic de la province de Languedoc, contre ce qui est porté par la déclaration du mois d'octobre 1648, la cour auroit ordonné par son arrêt du 18 avril dernier, que très-humbles remontrances seraient faites à Sa Majesté sur l'infractin de ladite déclaration ....)[Fait à Toulouse en parlement le 6 jour du mois de mai 1651], [s.l.n.d.] [1651], 2p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 18775

H042 Extrait des registres de parlement : (sur la requête verbalement faite par le procureur général du roi, disant qu'ores la cour par son arrêt du 29 avril dernier, aye pour le bien et service du roi, et soulagement de ses sujets, enjoint à tous consuls, exacteurs et receveurs particuliers, de procéder incessamment à la levée des deniers royaux, et autres y contenus, et surcis à la levée d'autres sommes y mentionnées. Néanmoins il est averti que certains consuls, syndics, et autres monopolés pour empêcher l'exécution dudit arrêt ....)[Fait à Toulouse en parlement, les chambers assemblées, le 15 mai 1651], [s.l.n.d.] [1651], 2p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 18776

H043 Extrait des registres de parlement : (sur la requête verbalement faite par le procureur général du roi, disant que ores en la convocation de l'assemblée de la sénéchaussée de Toulouse pour la députation aux Etats généraux du royaume, chaque ville de ladite sénéchaussée ait contribué aux frais de ses députés ; Néanmoins il est averti qu'on a imposé la présente année en conséquence de quelque prétendu arrêt du conseil ....) [Fait à Toulouse en parlement le 19 mai 1651], [s.l.n.d.] [1651], 2p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 18777

H044 Extrait des registres de parlement : (sur la requête verbalement faite par le procureur général du roi, disant que ores par l'arrêt de la cour du 19 avril

dernier pour les causes y contenues, il soit enjoint aux greffiers secrétaires des diocèses, de, aux mandes qui se font en conséquence des verbaux des assiettes, spécifier article par article les causes des impositions, et adapter à chacune d'icelles la somme particulière, à peine de répondre en leur propre et privé nom de retardement de la levée des deniers royaux, et de tous inconvenients qui s'en pourraient ensuivre ...) [Fait à Toulouse en parlement le 27 mai 1651], [s.l.n.d.] [1651], 2p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 18779

H045 Extrait des registres de parlement : (sur la requête verbalement faite par le procureur général du roi, disant que ores la cour par ses arrêts des 29 avril, 15 et 19 du présent mois, donnés aux chambres assemblées, aye enjoint aux receveurs, syndics, consuls et exacteurs, de incessamment procéder à la levée des deniers royaux, et autres y contenus. Néanmoins il est averti qu'en plusieurs diocèses de de [*sic.*] la province, au lieu de procéder à la levée des susdits deniers, au contraire on fait faire des prêts et avances à quelques receveurs et autres personnes ...) [Fait à Toulouse en parlement le 27 mai 1651], [s.l.n.d.] [1651], 2p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 18778

H046 Extrait des registres de parlement : (sur la requête verbalement faite par le procureur général du roi, disant que ores un des plus anciens privileges de la province de Languedoc, soit que les habitants d'icelle ne puissent être distraits par procès hors du ressort de la cour ; néanmoins le syndic général de ladite province, en haine de ce que la cour par son arrêt du 29 avril dernier, lui a réduit ses gages comme ils étaient avant l'edit de Beziers ...) Extrait des registres de parlement : (sur la requête verbalement faite par le procureur général du roi, disant que ores la cour par ses arrêts des 29 avril, 15 et 19 du présent mois, donnés aux chambres assemblées, ait enjoint aux receveurs, syndics, consuls et exacteurs, de incessamment procéder à la levée des deniers royaux, et autres y contenus. Néanmoins il est averti qu'en plusieurs diocèses de de [*sic.*] la province, au lieu de procéder à la levée des susdits deniers, au contraire on fait faire des prêts et avances à quelques receveurs et autres personnes ...) [Prononcé en parlement le 2 jour de juin 1651], [s.l.n.d.] [1651], 4p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 18780

H047 Extrait des registres de parlement : (vu la requête présentée à la cour par monsieur le prince de Condé ; Disant que la France a ressenti pendant longues années la tyrannie du cardinal Mazarin, de laquelle l'ignorance du suppliant ni sa qualité ne l'ont pu mettre à couvert, ni de la haine irréconciliable que ledit cardinal a toujours eu contre la maison royale, lequel abusant de son ministère l'aurait sans raison ni prétexte quelconque fait emprisonner....) [Fait à Toulouse en parlement le 15 février, 1652], [s.l.n.d.] [1652], 4p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 18781

H048 \*Généreux (les) conseils d'un gentilhomme françois<sup>22)</sup> qui a quitté le parti des mazarins [pour se retirer à Paris]<sup>23)</sup> (CM1485 (H102))<sup>24)</sup>.

Franklin : 2289

H049 \*Glorieux (les) sentiments de la noblesse française<sup>25)</sup> (CM1488 (H102)).

Franklin : 2289

H050 \*Glorieux (les) travaux du parlement pour le maintien de l'autorité du roi (CM1501 (H102)).

Franklin : 2289

H051 \*Harangue du courrier extraordinaire envoyé par N.S.P. le pape à la reine régente (CM1558 (H101)).

Franklin : 2289

H052 \*Harangue faite à la reine à Saint-Germain, et la réponse de la reine (CM0827 (H101)).

Franklin : 2289

H053 Harangue faite au roi par le recteur de l'Université de Paris, au nom de cette université en corps dans le palais royal, le dimanche matin 10 septembre 1651, sur le sujet de sa majorité. Avec de très-belles remarques, paraphrases et anagrammes, sur le nom de Sa Majesté, Paris, Alexandre Lesselin, 1651, 7p.<sup>26)</sup>, 23cm, avec permission<sup>27)</sup> (CM1591).

Franklin : 11786

- H054 Harangue prononcée en l'ouverture de l'assemblée de la noblesse du Languedoc, le 27 juin 1651, [s.l.n.d.] [1651], 4p., 23cm (Mazarinade inconnue).  
Franklin : 12351
- H055 Heureuse (l') captivité, ou, L'innocence reconnue de messieurs les princes et duc de Longueville, par les moyens de leur liberté. Contenant l'histoire de ce qui s'est passé depuis le siège de Dunkerque, jusques à présent. Ensemble les intrigues et artifices desquelles s'est servi le cardinal Mazarin pour la perte de cette maison. Dédié à monseigneur le prince de Condé, Paris, André Chouqueux, 1651, 71p., 23cm (CM1629)<sup>28)</sup>.  
Franklin : 12489
- H056 \*Idole (l') renversée, ou le ministre d'État puni (CM1675 (H100)).  
Franklin : 2289
- H057 \*Intérêt (l') des provinces (CM1714 (H103)).  
Franklin : 2289
- H058 \*Lettre circulaire et véritable de l'archiduc Léopold. Envoyée à tous gouverneurs, prévôts et échevins des villes et bourgs de France, situés sur le chemin et la route de son armée<sup>29)</sup> (CM1828 (H103)).  
Franklin : 2289
- H059 \*Lettre déchiffrée d'un mazariniste à Mazarin, trouvée entre Saint-Germain et Paris, et traduite d'Italien en français. Sur le mariage du parlement avec la ville de Paris<sup>30)</sup> (CM2067 (H103)).  
Franklin : 2289
- H060 \*Lettre d'Aristandre à Cléobule, [où les conjectures politiques sur ce qui se passe à Saint-Germain]<sup>31)</sup> (CM1836 (H103)).  
Franklin : 2289
- H061 \*Lettre d'un docteur de [l'université de]<sup>32)</sup> Paris, à la reine régente à Saint-Germain-en-Laye, sur le sujet de la paix<sup>33)</sup> (CM1862 (H103)).  
Franklin : 2289

- H062 \*Lettre d'un gentilhomme, à la reine (CM1866 (H100)).  
Franklin : 2289
- H063 \*Lettre d'un gentilhomme romain à un français. Contenant les discours que tiennent les politiques étrangers du gouvernement de la France ; et comme ils connaissent que ses afflictions ne proviennent que des trahisons de ses ministres. Nouvellement et fidèlement traduite d'Italien en français (CM1879 (H100)).  
Franklin : 2289
- H064 Lettre d'un marchand de Liège à un sien correspondant de Paris. Avec l'instruction secrète du Cardinal Mazarin pour Zongo Ondedei retournant à Paris, [s.l.], 1651, 11p, 22cm (CM1884).  
Menger/Fr. : 885
- H065 —Lettre d'un marchand de Liège à un sien correspondant de Paris : avec l'instruction secrète du Cardinal Mazarin pour Zongo Ondedei retournant à Paris, [s.l.], 1651, 11, [1] p., 22cm (CM1884)<sup>34)</sup>.  
Franklin : 12370
- H066 \*Lettre d'un religieux envoyée à monseigneur le prince de Condé [à Saint-Germain-en-Laye]<sup>35)</sup> Imprimé à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM1895 (H101)).  
Franklin : 2289
- H067 \*Lettre d'une religieuse présentée au roi et à la reine [le 1 février 1649]<sup>36)</sup> pour obtenir la paix. A Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM1901 (H101)).  
Franklin : 2289
- H068 \*Lettre d'un véritable français, à Monseigneur le duc d'Orléans (CM1898 (H100)).  
Franklin : 2289
- H069 \*Lettre de l'Empereur envoyée ausdits parisiens, touchant lesdits motifs de

la paix (CM2146 (H103))<sup>37)</sup>.

Franklin : 2289

H070 \*Lettre de l'archiduc Léopold, par lui envoyée au parlement de Paris par le susdit courrier, et le discours par lui tenu audit parlement<sup>38)</sup> (CM0827 (H101))<sup>39)</sup>.

Franklin : 2289

H071 \*Lettre de la petite Nichon du Marais, à Monsieur le Prince, à Saint-Germain (CM1940 (H100)).

Franklin : 2289

H072 Lettre de madame la princesse douairière de Condé, présentée à la reine régente. Contenant tous les moyens dont le cardinal Mazarin s'est servi pour empêcher la paix, pour ruiner le parlement et le peuple de Paris ; pour tâcher de perdre monsieur le duc de Beaufort, monsieur le coadjuteur, monsieur de Brousselles, et monsieur le président Charton ; par l'assassinat supposé contre la personne de Monsieur le Prince ; et pour emprisonner messieurs les princes de Condé et de Conty, et monsieur le duc de Longueville, [s.l.], 1650, 57p., 23cm<sup>40)</sup> (CM1954).

Franklin : 11680

H073 Lettre de Mr le prince, à messieurs du parlement de Paris : avec la réponse de la reine sur ladite lettre, donnée à messieurs les gens du roi, pour le parlement, Paris, par les imprimeurs et libraires ordinaires du roi, 1651, 8p., 21cm, avec privilège de sa Majesté<sup>41)</sup> (CM2029, CM2009<sup>42)</sup>).

Franklin : 11682

H074 —Seconde lettre écrite à messieurs du parlement par monseigneur le prince de Condé, servant de réponse à l'écrit envoyé par la reine régente à messieurs du parlement par messieurs les gens du roi, Paris, veufue J. Guillemot, 1651, 8p., 22cm<sup>43)</sup> (CM3617).

Franklin : 11688

H075 \*Lettre de monsieur le maréchal de Turenne envoyée à monsieur de Bouillon (CM2026 (H102)).

Franklin : 2289

H076 Lettre de monsieur le prince à son Altesse Royale. Sur le sujet de sa retraite de la cour, Paris, Nicolas Vivenay, 1651, 8p., 22cm (CMadd1.149, CM2033<sup>44</sup>).

Franklin : 11683

H077 \*Lettre de Pierre de Provence à la reine. En forme d'avis, sur ce qui s'est passé en son pays (CM2043 (H103)).

Franklin : 2289

H078 \*Lettre de Polichinelle, à Jules Mazarin (CM2045 (H100)).

Franklin : 2289

H079 \*Lettre du chevalier Georges de Paris, à Monsieur<sup>45</sup> le Prince de Condé (CM2099 (H100)).

Franklin : 2289

H080 \*—Seconde lettre du chevalier Georges de Paris, à Monsieur le Prince (CM2099 (H100)).

Franklin : 2289

H081 \*Lettre du comte duc d'Olivarez ministre d'État du roi d'Espagne, à Jules Mazarin cardinal et naguère ministre d'Etat du roi de France (CM2101 (H103)).

Franklin : 2289

H082 Lettre du roi, à nos très-chers et bien-amés[*sic.*] les capitouls et habitants de notre ville de Toulouse, Toulouse, Arnaud Colomiez premier imprimeur ordinaire du roi, [s.d.] [1652], 4p., 23cm<sup>46</sup> (Mazarinade inconnue).

Franklin : 12242

H083 \*Lettre du roi d'Espagne envoyée aux parisiens, touchant les motifs de la paix générale (CM2146 (H103))<sup>47</sup>.

Franklin : 2289

H084 Lettre écrite au roi par monsieur le prince : Sur le sujet de son absence à l'action de sa majorité, Paris, Nicolas Vivenay, 1651, 4p., 22cm<sup>48</sup> (CM2215).

Franklin : 11684

H085 \*Lettre envoyée à quelques villes de Champagne et Picardie pour les inciter à prendre le [bon]<sup>49)</sup> parti du roi et du parlement. Jouxte la copie imprimée à Paris. A Rouen, Jacques Besongne dans la cour du palais, avec permission (CM1817<sup>50)</sup> (H102)).

Franklin : 2289

H086 \*Lettre envoyée de Saint-Germain à l'imprimeur<sup>51)</sup> (Mazarinade inconnue<sup>52)</sup> (H101)).

Franklin : 2289

H087 Limites (les) des souffrances de la France, [s.l.], 1650, 7p., 21cm (CM2302).  
Menger/Fr. 902(4)

H088 \*Manifeste au roi, à la gloire du parlement<sup>53)</sup>. Sur l'imprimé à Paris, à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM2351 (H101)).

Franklin : 2289

H089 Manifeste (le) de monseigneur le prince, pour servir de justification aux calomnies du discours qui fut exposé le 17 août 1651. Où il est répondu en détail à toutes les choses qu'on lui impute fausement. Et où l'on fait voir que ce discours ne tend qu'à décrier la reputation de Monsieur le Prince, dans l'idée du peuple : attendu que la fausseté de crimes qu'on lui suppose ne paraît que trop évidente à ceux qui sont versés dans la connaissance des affaires, Paris, [sans éditeur], 1651, 24p., 21cm, avec approbation de Monsieur le Prince (CM2373).

Franklin : 11685

H090 Manifeste (le) de monseigneur le prince de Condé, touchant les véritables raisons de sa sortie hors de Paris, faite le 6 juillet 1651. Avec une protestation qu'il fait à la France, qu'il n'en veut qu'à l'ennemi commun de son repos, c'est-à-dire au cardinal Mazarin, [s.l.n.d.] [1651], 23p., 21cm (CM2372).

Franklin : 11686

H091 Maximes morales et chrétiennes pour le repos des consciences dans les affaires présentes. Pour servir d'instruction aux curés, aux prédicateurs et aux confesseurs. Dressées et envoyées de Saint-Germain-en-Laye, par un théologien,

fidèle officier du roi. A messieurs du parlement, Paris, Cardin Besongne, 1649, 16p., 23cm, avec permission (CM2427)<sup>54)</sup>.

貴 A:3664

H092 — Suite des maximes morales et chrétiennes, Paris, Cardin Besongne, 1649, 29p., 23cm, avec permission (CM2427)<sup>55)</sup>.

貴 A:3664

H093 \*Mot (le) à l'oreille, ou le miroir qui ne flatte point (CM2498 (H103)).

Franklin : 2289

H094 \*Ombre (l') du grand Armand cardinal [duc]<sup>56)</sup> de Richelieu, parlant[e]<sup>57)</sup> à Jules Mazarin. A Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM2593 (H101)).

Franklin : 2289

H095 Ordonnance de monsieur de Caulet, conseiller du roi en la cour de parlement, et commissaire député pour l'exécution de ses arrêts, des 15 février, 11 mars, 18 avril derniers, et autres. Contenant vérification et liquidation des sommes imposées et levées dans le diocèse de Mirepoix, au dessus des commissions du roi, et frais ordinaires d'assiette, revenants à cent soixante dix-huit mil cent quatre-vingts six livres sept sols six deniers, suivant les actes remis devers ledit sieur commissaire, dont la restitution est ordonnée, avec la clause solidaire contre les ordinateurs et autres, au profit et à la décharge du peuple, [s.l.n.d.] [1651], 32 p., 23cm<sup>58)</sup> (Mazarinade inconnue).

Franklin : 11615

H096 Politique (le) du temps. Touchant ce qui s'est passé depuis le 26 août 1648 jusques à l'heureux retour du roi en sa ville Paris. Discours qui peut servir de mémoire à l'histoire. Dédié aux curieux, [s.l.], 1648, 22p. (CM2812).

貴 A-B531

H097 \*Procès verbal de la conférence faite à Ruel, par messieurs les députés du parlement, chambre des comptes et cour des aides, ensemble ceux de la ville. [Contenant toutes les propositions qui ont été faites, tant par les princes et députés de la reine, que par les députés desdites compagnies, et de tout ce

qui s'est passé entre eux pendant ladite conférence]<sup>59)</sup> (CM2892 (H103)).

Franklin : 2289

H098 \*Réception (la) faite à messieurs les gens du roi à Saint-Germain-en-Laye<sup>60)</sup>  
(CM0827 (H101))<sup>61)</sup>.

Franklin : 2289

H099 \*Réception (la) faite au courrier d'Espagne au parlement de Paris (CM0827  
(H101)).

Franklin : 2289

H100 Recueil des pièces secrètes de ce temps, [s.l.], 1649, 84p., 24cm (CM3053).

Franklin : 2289<sup>62)</sup>

H101 Second recueil des pièces<sup>63)</sup> curieuses de ce temps. Sur l'imprimé à Paris, Rouen,  
par les imprimeurs de la Cour, 1649, 80p., 24cm, avec permission (CM3035).

Franklin : 2289

H102 — Troisième recueil des pièces curieuses de ce temps, Rouen, Jean  
Berthelin, 1649, 96p., 24cm, avec permission (CM3035).

Franklin : 2289

H103 — Quatrième recueil des pièces curieuses de ce temps, Rouen, Jean  
Berthelin, 1649, 92p., 24cm, avec permission (CM3035).

Franklin : 2289

H104 Recueil général des états tenus en France, sous les rois, Charles VI,  
Charles VIII, Charles IX, Henry III, et Louis XIII. Dédié à Monseigneur le  
premier président, Paris, Au Palais, 1651, 365p., ; Remontrance aux trois états  
de France, qui se doivent assembler à Blois, [s.l.n.d.], 290p., 24 cm  
(Mazarinade inconnue<sup>64)</sup>).

Franklin : 1694.

H105 Relation de ce qui s'est passé en la dernière assemblée du parlement, le  
2<sup>e</sup> jour de ce mois<sup>65)</sup>, Paris, Nicolas Vivenay, 1651, 15p., 21cm (CM3126).

Franklin : 12737

H106 Relation de tout ce qui s'est passé au parlement le 7 juillet 1651. Touchant la déclaration de messieurs les princes, contre le cardinal Mazarin et ses adhérents, Paris, [sans éditeur], 1651, 14p., 21cm (CM3149).

Franklin : 12741

H107 \*Remontrances à la reine régente sur le [mauvais]<sup>66)</sup> gouvernement de l'État (CM3334<sup>67)</sup> (H102)).

Franklin : 2289

H108 Réponse de messieurs les princes aux calomnies et impostures du Mazarin<sup>68)</sup>, [s.l.], 1650, 50p., 23cm (CM3399).

Franklin : 11687

H109 Requête présentée à la cour de parlement de Toulouse, par la noblesse de la province de Languedoc. Demandant permission de s'assembler, pour avoir comme leurs devanciers l'entrée et voix délibérative aux états de ladite province, avec l'arrêt de ladite cour, et lettre circulaire pour convoquer l'assemblée de ladite noblesse, [s.l.n.d.] [1651], 5p., 23cm (Mazarinade inconnue).

Franklin : 12673

H110 Requête (la) des trois états, touchant le lieu, et les personnes qu'on doit choisir pour l'assemblée des États généraux. Conforme à la proposition que son Altesse royale en a fait à Leurs Maiestés, et aux sentimens de messieurs les princes, dont les conseils doivent être principalement suivis, et préférés à tous autres, [s.l.n.d.]<sup>69)</sup>, 24p., 22cm (CM3495).

Franklin : 12757

H111 \*Robe (la) sanglante de Jules Mazarin, avec [la vérité reconnue ou]<sup>70)</sup> le véritable récit [*sic.*]<sup>71)</sup> de toutes ses fourbes et impostures (CM3554<sup>72)</sup> (H100)).

Franklin : 2289

H112 Second avis sur les calomnies contre monsieur le Prince, Paris, Nicolas Vivenay, 1651, 6p., 20cm (CMadd1.220)<sup>73)</sup>.

Franklin : 12810

- H113 Solitaire (le) aux deux désintéressés, [s.l.], 1651, 8p., 22cm (CM3680).  
Franklin : 12762
- H114 \*Théologien (le) d'État [à la reine]<sup>74)</sup> (CM3769, CM3770 (H102)).  
Franklin : 2289
- H115 Très-humbles remontrances du parlement de Toulouse, faites au roi, contre le retour du cardinal Mazarin : et pour la surséance de la déclaration de Sa Majesté, contre Monsieur le Prince, [s.l.n.d.] [1652], 8p., 23cm<sup>75)</sup> (Mazarinade inconnue<sup>76)</sup>).  
Franklin : 12234
- H116 Triomphe de l'innocence manifesté par la destruction des impostures et faux bruits qu'ont semé les partisans du cardinal Mazarin contre l'intégrité de Monseigneur le Prince. Avec les faibles raisons par lesquelles ils tâchaient de déguiser leur médisance, pour rendre sa conduite odieuse et suspecte, que l'auteur montre ne pouvoir subsister, sans que ce prince eut manqué contre toute sorte de bonne maxime, Paris, [sans éditeur], 1651, 59p., 23cm (CM3873).  
Franklin : 12875
- H117 \*Véritables (les) reproches faits à Jules Mazarin, par un ministre d'État (CM3978 (H100)).  
Franklin : 2289
- H118 \*Vérité (la) sans masque de la misère persécutée, ou la plainte des pauvres à la reine, contre le cardinal Mazarin. In puteo veritas. Neque urgeat super me puteus os suum, Psal.68.<sup>77)</sup> Sur l'imprimé à Paris, à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM4004 (H101)).  
Franklin : 2289
- H119 Vérité toute nue, ou avis sincère et désintéressé sur les véritables causes des maux de l'État : et les moyens d'y apporter le remède, Paris, René Baudry, 1652, 15p., 23cm (CM4007<sup>78)</sup>).  
Franklin : 11829

H120 \*Visions (les) nocturnes de M.Mathurin<sup>79)</sup> Questier [parisien]<sup>80)</sup> (CM4043 (H102)).

Franklin : 2289

H121 —\*Seconde partie des *Visions nocturnes*<sup>81)</sup> (CM4043 (H102)).

Franklin : 2289

H122 —\*Troisième partie des *Visions nocturnes*<sup>82)</sup> (CM4043 (H102)).

Franklin : 2289

H123 Délibérations du bureau de la santé de cette ville d'Aix. Du sixième octobre 1649, le bureau de santé assemblé. (Le bureau a ordonné que les muletiers qui s'en iront à la Cieutat prendront un guide en cette ville d'Aix, & ceux qui viendront dudit la Cieutat en cette ville en prendront aussi un à leurs dépens, enjoint ausdits muletiers de le prendre, sans lequel, fait défenses aux intendans des portes de cette ville, dudit la Cieutat, & autres lieux par où ils passeront, de les laisser entrer que avec ledit guide qui aura l'attestation des consuls .... ), [s.l.] [1649], 1 sheet ([1]p.), 33 x 26 cm (Mazarinade inconnue<sup>83)</sup>).

Franklin : 18816

ラテン語

H124 Illustres Cardinales Armandus. D. de Richelieu et Mazarinus, Regum Franciæ Ludd. XIII. & XIV. consiliarii intimi, sive, Secretissima instructio et historia universalis ab anno 1624. usque ad hæc tempora, de ministeriis, consultationibus, negotiationibus, literis, scriptis, confæderationibus, ac demum machinationibus in materia status contra universam Domum Austriacam, per Italiam, Sabaudiam, Rhætiam, Lotharingiam, Flandriam, & alias dynastias peractis : cum observationibus politicis ad quælibet capita : opus Gallicum Latinitate donatum. -- Impensis Joh. Godofredi Schönwetteri : Typis Joh. Friderici Weissii, anno 1652. [10], 1261 [i.e 1259], [37] p., 17 cm (Mazarinade inconnue<sup>84)</sup>).

Menger/Lat. : 330

---

1) 選集において目次の題名と本文における題名が異なる場合がある。ここで [ ] は目次題名にのみ挿入された語句である。

2) CM0144 : Apparitions (les) épouvantable (*sic.*) [*sic.*] de l'esprit du marquis d'Ancre, venu par ambassade à Jule Mazarin. Le Marquis d'Ancre en reproches avec Mazarin.

3) CM0192 : « portant »

4) « écrit à Bordeaux en parlement des chambres, assemblées le 30 août 1651 »

5) H010 の複本だが、p.4 までしかない。

6) 続編との合本。

7) Franklin : 1599(H018)と同版。

8) 正編との合本。

9) Menger/FH100695 とは別版だが、内容・頁数は同一。続編との合本

10) 正編との合本。

11) 本文題名 : La Déclaration du duc Charles, faite à nosseigneurs de parlement, et aux bourgeois de Paris, en faveur de la France. 選集中 R44-R46(H069, H026, H083)は連続して印刷されているため、一文書とみなすことも可能である。

12) CM0937: Déclaration du roi, portant révocation de toutes comissions extraordinaires, même de celles des intendants des justices [*sic.*] ... vérifiée en parlement, le 18 juillet 1648, 11p. T:A-01-095 は CM0937 と一致。

13) 本文題名にのみ挿入。

14) CM1106 : Discours d'État et de religion sur les affaires du temps présent, à la reine. 全六部構成の文書で、「à messieurs du parlement」は第四部の文書。M12813 ; T:C-07-37.

15) H032 とは別版だが、頁数等はすべて同じ。

16) 前半(H034)が散文、後半(H035)が韻文。選集の目次では二文書扱いであるが、CM1178 では散文、韻文合わせて一文書の扱い。

17) 本文題名 : Écho de la France.

18) CM1300 : « des revenus ».

19) CM1300 によると、「de France」の有無は版により異なる。

20) « le 22 mars 1649 ». この題名では見当たらないが、おそらく珍しい文書ではない。

21) 本文題名 : « Extrait des registres de la cour de parlement ». この題名では見当たらないが、おそらく珍しい文書ではない。

22) この語に関しては、「フランソワ」という固有名詞との掛詞でもありうることを考慮して、明らかに普通名詞と考えられる場合でも原綴を残す。原綴が « français » の場合にはこの限りではない。

23) 本文題名にのみ挿入。

24) 選集中の他の文書と異なり、通し番号ではなく独自の頁番号が打たれているため (« pp.5-12 »)、この文書のみ収集選集の文書かもしれない。

25) 本文題名 : Les Généreux sentiments de la noblesse française, sur le mauvais gouvernement de l'État. Par un ministre étranger.

26) +1p. : « avertissement »

27) permission : « le 13 septembre 1651, signé I. Doüet. E.S.D.R. »

28) 71p.の完全版だが、一部乱丁あり。

29) « le 20 mars 1649 »

30) « signé Gio. Battista Lucrino ». p.71 に« au lecteur »有り。

31) 本文題名にのみ挿入。

- 32) 本文題名にのみ挿入。
- 33) « signé Martin Griveau »
- 34) Menger/Fr 885 と同版。
- 35) 本文題名にのみ挿入。
- 36) 本文題名にのみ挿入。
- 37) 選集中 R44-R46 (H069, H026, H083)は連続して印刷されているため、一文書とみなすことも可能である。
- 38) « De Bruxelles le 10 février 1649 »
- 39) 選集目次では R16-R19 (H098, H052, H099, H070)は独立した文書扱い。R16 の本文に挿入された題名では R16-R19 が一つの文書をなす。文書の体裁としては R16, R17, R18 が一つの文書で R19 は独立した文書、また R19 の後に *Harangue* が置かれている。M.ではこの最後の計算法を採用している。末尾 : « Sur l'imprimé à Paris. A Rouen, par les imprimeurs de la Cour, avec permission ». R16-R19 の 4 文書はすべて、CM0827 に含まれる。CM0827 : *Le Courrier extraordinaire, apportant les nouvelles de la réception de messieurs les gens du roi à Saint-Germain-en-Laye, et de celle du courrier d'Espagne au palais ; avec toutes les harangues qui ont été faites, Paris, Rollin de la Haye, 1649, 8p. (T:C-01-042).*
- 40) « de Chilly, le 16 mai 1650 »
- 41) « de Saint Maur, le 7 juillet 1651 » ; « la Réponse que la reine a donnée à messieurs les gens du roi, pour porter au parlement de sa part ; après la lecture faite par sa Majesté, de la letter de monsieur le Prince »
- 42) CM にて重複して番号を与えられた文書。
- 43) « Saint Maur le 9 juillet 1651 »
- 44) モローの『書誌』において、まずは CM2033 として、次いで第一補遺 149 番として、重複して番号を与えられた文書。
- 45) 本文題名 : « monseigneur » (=CM2099)
- 46) « Saumur le 29 février 1652 »
- 47) V. n.37.
- 48) « le 6 septembre 1651 »
- 49) 本文題名にのみ挿入。
- 50) CM1817 : *Lettre circulaire, contenant un charitable avis à quelques villes de Champagne et Picardie, pour les inciter de se résoudre à prendre le bon parti du roi, et du parlement. Du 12 fév. 1649, Paris, François Preuveray, 1649, 7p. (T:A-05-073, T:C-03-055, T:D-02-012).*
- 51) « De Saint-Germain-en-Laye ce vendredi 12 février 1649 »
- 52) 選集ではこの「手紙」は次に置かれた文書の前書きの役割を果たしているため、おそらくは選集に収録するにあたり、本文から独立させた文書にすぎない。
- 53) 本文題名 : *Manifeste au roi, contenant quel doit être le conseil d'un prince. A la gloire du parlement. Par L.S.D.T.*
- 54) CM2427 では二部構成の扱いで、第一部にあたる。続編との合本。
- 55) CM2427 では二部構成の扱いで、第二部にあたる。正編との合本。
- 56) 本文題名にのみ挿入。
- 57) 本文題名にのみ挿入。
- 58) « Fait à Toulouse le 17 juin 1651 »
- 59) 本文題名にのみ挿入。
- 60) 本文題名 : *Réception (1a) de messieurs les gens du roi à Saint-Germain-en-Laye, et de celle du courrier d'Espagne au parlement de Paris, lui présentant la lettre de l'archiduc de Léopold, avec toutes les*

harangues qui ont été faites, et la réponse de la reine.

61) V. n.39.

62) 以下4文書(H100-H103)で一冊の合本が構成されている。

63) CM3035 : « diverses pièces »

64) Ou non-Mazarinade ?

65) CM3126 : « août 1651 »

66) CM3334 には欠

67) CM3334 : Remontrances à la reine régente sur le gouvernement de l'État, Paris, Arnould Cottinet, 1649, 8p. (T:C-09-45).

68) CM3399 : « de Mazarin »

69) CM3495 : « août 1651 »

70) 本文題名にのみ挿入。

71) Cf. CM3554

72) CM3554 : Robe (la) sanglante de Jules Mazarin, ou les Véritables récit des fourbes, des impostures et autres vices, par le sieur de Mirand, gentilhomme cécilien(*sic.*). Paris, François Musnier, 1649, 12p.

73) V. CM0479

74) 本文題名にのみ挿入

75) « Délibérées à Toulouse le 27 février, 1652 »

76) Cf. CM3834 : « le 1 mars 1652 »

77) « A Paris, le 22, janvier 1649 »

78) 但し CM4007 は 23p.または 26p.となっている。

79) 本文題名では Maturin

80) 本文題名にのみ挿入

81) 本文題名 : Suite des visions nocturnes. de M. Maturin Questier parisien. Seconde Partie.

82) 本文題名 : Suite des visions nocturnes. de M. Mathurin [*sic.*] Questier parisien. Troisième Partie.

83) Ou non-Mazarinade ?

84) アントワヌ・オブリの『リシュリユー枢機卿伝』とシヨンの『マザラン枢機卿の行政に関するいくつかの困難の解明』という異なる二著書のラテン語版の合本であり、後者だけならそのフランス語版がモローの『書誌』に掲載されている(CM1181)。また、センターの所蔵品と同じ版本を、フランス国立図書館も所蔵している(BNF. LA28-1(A))。

## 古典資料センター所蔵 マザリナード選集合本内容一覧（2009年）

### 作成上の留意点

- － 以下は、2009年12月時点での調査に基づく、一橋大学社会科学古典資料センター所蔵マザリナード選集合本に含まれる文書の一覧である。
- － 各文書には「古典資料センター所蔵マザリナード一覧(2009年)」において、既に「H+三桁の数字」の通し番号を与えているが、本一覧ではさらに「R+二桁の数字」で通し番号を入れる。この二通りの通し番号は作成者の方針に従い付したもので、センターで採用されている目録表記や請求記号とは何ら関係がない。
- － 選集に関しては、個々の文書の頁数、出版地等の書誌情報は原則として掲載しない。
- － 題名には検索と配列の利便性を考慮して、現代フランス語表記を採用することとした。この点専門司書と意見の分かれるところであり、あくまで作成者の方針に拠る。
- － 「Mazarinade inconnue」（「未知のマザリナード」）とは、拙論「マザリナードの手続き」（参考文献一覧を参照）及び本論考解説で提示した文書調査の手続きを踏まえ、印刷物及びインターネット検索をしても、今現在（2009年12月）他所で発見することの出来なかった文書を指す。
- － 選集であるため、版型、ページ数、出版地などは、当然オリジナル版を記述対象としているモローの『書誌』とは異なる。
- － 「目次題名」と「本文題名」の違いは註の形で明示する。
- － 付属の拙論「古典資料センター所蔵『マザリナード』の現在」にも記したが、読者とりわけ研究者に最大限のマザリナードを提供することを主眼としているため、モローの『書誌』ではまとめて一文書とされているものも、目次題名に従って複数の文書として扱い、通し番号を付した。その由は逐次註に明記する。

### 提示例

1.

別掲「マザリナード一覧（2009年）」における通し番号

H100	Recueil des pièces secrètes de ce temps, [s.l.], 1649, 84p., 24cm (CM3053).	Franklin : 2289
------	-----------------------------------------------------------------------------	-----------------

四選集のセンターでの請求記号

選集としてモローの『書誌』に掲載されている番号

2.

選集に収録された文書の通し番号

字句に異同が有る場合に注記する

R11 Robe (la) sanglante de Jules Mazarin, avec [la vérité reconnue ou] le véritable récit [sic.] de toutes ses fourbes et impostures (CM3554, H111).

モローの『書誌』掲載番号

別掲「マザリナード一覧(2009年)」における通し番号

p.61

選集中の頁番号

略号一覧：

H=一橋大学 (Université Hitotsubashi)

M=マザリヌ図書館の『電子カタログ』上での請求記号 (Catalogue informatisé de la Bibliothèque Mazarine)

T=東京大学総合図書館所蔵文書の請求記号 (Université de Tokyo)

CM=セレスタン・モローの『書誌』掲載番号(Célestin Moreau, *Bibliographie des Mazarinades*)

CMaddl.=モロー『書誌』への「第一補遺」掲載番号(Célestin Moreau, *Bibliographie des Mazarinades, la première addition*)

R=選集(Recueil)収録文書 (別途作成した「マザリナード合本選集内容一覧」を参照のこと)

\*\*\*

Franklin : 2289<sup>1)</sup>

H100 Recueil des pièces secrètes de ce temps, [s.l.], 1649, 84p., 24cm (CM3053).

R01 Lettre de la petite Nichon du Marais, à Monsieur le Prince, à Saint-Germain (CM1940, H071).

p.5

R02 Lettre du chevalier Georges de Paris, à Monsieur<sup>2)</sup> le Prince de Condé (CM2099, H079).

p.8

R03 Lettre d'un gentilhomme romain à un français. Contenant les discours que tiennent les politiques étrangers du gouvernement de la France ; et comme ils connaissent que ses afflictions ne proviennent que des trahisons de ses ministres. Nouvellement et fidèlement traduite d'Italien en français (CM1879, H063).

p.25

- R04 Lettre d'un gentilhomme, à la reine (CM1866, H062).  
p.31
- R05 Véritables (les) reproches faits à Jules Mazarin, par un ministre d'État (CM3978, H117).  
p.37
- R06 Écho de la France troublée par le déguisé Mazarin, représenté par la figure d'un ours. Ah ? [*sic.*] quot sunt mihi facinora notata ? [*sic.*] (CM1178, H034)<sup>3)</sup>.  
p.44
- R07 Autre écho de la France<sup>4)</sup> (CM1178, H035).  
p.47
- R08 Apparitions (les) épouvantables[*sic.*] de l'esprit du marquis d'Ancre, venues par ambassades à Jules Mazarin. Le Marquis d'Ancre, en ombre parlant par esprit<sup>5)</sup> (CM0144, H002).  
p.49
- R09 Court-bouillon (le) de Mazarin assaisonné par toutes les bonnes villes de la France (CM0837, H024).  
p.53
- R10 Idole (l') renversée, ou le ministre d'État puni (CM1675, H056).  
p.57
- R11 Robe (la) sanglante de Jules Mazarin, avec [la vérité reconnue ou] le véritable récit [*sic.*] de toutes ses fourbes et impostures<sup>6)</sup> (CM3554<sup>7)</sup>, H111).  
p.61
- R12 Adieu (l') de Jules Mazarin à Monsieur le Prince, et la réponse qu'il lui a faite [pour l'empêcher de partir]<sup>8)</sup> (CM0039, H001).  
p.69
- R13 Lettre d'un véritable françois, à Monseigneur le duc d'Orléans (CM1898, H068).  
p.73
- R14 Seconde lettre du chevalier Georges de Paris, à Monsieur le Prince (CM2099, H080).  
p.78
- R15 Lettre de Polichinelle, à Jules Mazarin (CM2045, H078).  
p.81(-p.84)

H101 Second recueil des pièces<sup>9)</sup> curieuses de ce temps. Sur l'imprimé à Paris, Rouen, par les imprimeurs de la Cour, 1649, 80p., 24cm, avec permission (CM3035, CM2851<sup>10)</sup><sup>11)</sup>.

R16 Réception (la) faite à messieurs les gens du roi à Saint-Germain-en-Laye<sup>12)</sup> (CM0827, H098)<sup>13)</sup>.

p.1

R17 Harangue faite à la reine à Saint-Germain, et la réponse de la reine (CM0827, H052).

p.3 et 4

R18 Réception (la) faite au courrier d'Espagne au parlement de Paris (CM0827, H099).

p.4

R19 Lettre de l'archiduc Léopold, par lui envoyée au parlement de Paris par le susdit courrier, et le discours par lui tenu audit parlement<sup>14)</sup> (CM0827, H070).

p.5

R20 Lettre envoyée de Saint-Germain à l'imprimeur<sup>15)</sup> (H086).

p.9

R21 Dernières (les) paroles de monsieur le duc de Châtillon, mourant, à monsieur le Prince [de Condé]<sup>16)</sup>. Sur l'imprimé à Paris, à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM1036, H029).

p.10

R22 Discours d'État et de religion, à messieurs du parlement. Sur l'imprimé à Paris, à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission<sup>17)</sup> (CM1106, H030).

p.17

R23 Vérité (la) sans masque de la misère persecutée, ou la plainte des pauvres à la reine, contre le cardinal Mazarin. In puteo veritas. Neque urgeat super me puteus os suum, Psal.68<sup>18)</sup>. Sur l'imprimé à Paris, à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM4004, H118).

p.23

R24 Harangue du courrier extraordinaire envoyé par N.S.P. le pape à la reine régente (CM1558, H051).

p.33

R25 Manifeste au roi, à la gloire du parlement<sup>19)</sup>. Sur l'imprimé à Paris, à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM2351, H088).

p.36

R26 Contrat de mariage du parlement avec la ville de Paris. Imprimé à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM0783, H023).

p.43

R27 Lettre d'un religieux envoyée à monseigneur le prince de Condé [à Saint-Germain-en-Laye]<sup>20)</sup>. Imprimé à Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM1895, H066).

p.51

R28 Lettre d'une religieuse présentée au roi et à la reine [le 1 février 1649]<sup>21)</sup> pour obtenir la paix. A Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM1901, H067).

p.64

R29 Avis sur l'État (CM0548, H015).

p.67

R30 Ombre (l') du grand Armand cardinal [duc]<sup>22)</sup> de Richelieu, parlant[e]<sup>23)</sup> à Jules Mazarin. A Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM2593, H094).

p.73

H102 — Troisième recueil des pièces curieuses de ce temps, Rouen, Jean Berthelin, 1649, 96p., 24cm, avec permission (CM3035, CM2851).
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R31 Glorieux (les) travaux du parlement pour le maintien de l'autorité du roi (CM1501, H050).

p.1

R32 Glorieux (les) sentiments de la noblesse française<sup>24)</sup> (CM1488<sup>25)</sup>, H049).

p.13

R33 Généreux (les) conseils d'un gentilhomme français<sup>26)</sup> qui a quitté le parti des mazarins [pour se retirer à Paris]<sup>27)</sup> (CM1485, H048)<sup>28)</sup>.

p.17

R34 Lettre envoyée à quelques villes de Champagne et Picardie pour les inciter à prendre le [bon]<sup>29)</sup> parti du roi et du parlement. Jouxte la copie imprimée à Paris. A Rouen, Jacques Besongne dans la cour du palais, avec permission (CM1817<sup>30)</sup>, H085).

p.25

R35 Avis d'un bon père hermite donné à un autre sur les malheurs du temps. Sur l'imprimé à Paris. A Rouen, Jacques Besongne dans la cour du palais, avec

- permission (CM0501, H013).  
p. 29
- R36 Théologien (le) d'État [à la reine]<sup>31)</sup> (CM3769, CM3770).  
p.33<sup>32)</sup>
- R37 Catéchisme des partisans, [résolutions théologiques, touchant l'imposition, levées et emploi des finances. Dressé par demandes et réponses pour plus grande facilité. Par le R.P.D.P.D.S.I.]. Sur l'imprimé à Paris. A Rouen, par les imprimeurs de la cour, avec permission (CM0652, H020).  
p.45
- R38 Remontrances à la reine régente sur le [mauvais]<sup>33)</sup> gouvernement de l'État (CM3334<sup>34)</sup>, H107).  
p.65
- R39 Lettre de monsieur le maréchal de Turenne envoyée à monsieur de Bouillon (CM2026, H076).  
p.73
- R40 Visions (les) nocturnes de M.Mathurin<sup>35)</sup> Questier [parisien]<sup>36)</sup> (CM4043, H120).  
p.76
- R41 Seconde partie des *Visions nocturnes*<sup>37)</sup> (CM4043, H121).  
p.81
- R42 Troisième partie des *Visions nocturnes*<sup>38)</sup> (CM4043, H122).  
p.89 (-p.96)
- H103 — Quatrième recueil des pièces curieuses de ce temps, Rouen, Jean Berthelin, 1649, 92p., 24cm, avec permission (CM3035).
- R43 Procès verbal de la conférence faite à Ruel, par messieurs les députés du parlement, chambre des comptes et cour des aides, ensemble ceux de la ville. [Contenant toutes les propositions qui ont été faites, tant par les princes et députés de la reine, que par les députés desdites compagnies, et de tout ce qui s'est passé entre eux pendant ladite conférence]<sup>39)</sup> (CM2892, H097).  
p.1
- R44 Déclaration du duc Charles, faite à messieurs du parlement en faveur de la France<sup>40)</sup> (CM0897, H026).  
p.33
- R45 Lettre du roi d'Espagne envoyée aux parisiens, touchant les motifs de la

- paix générale<sup>41)</sup> (CM2146, H083). p.37
- R46 Lettre de l'Empereur envoyée ausdits parisiens, touchant lesdits motifs de la paix<sup>42)</sup> (CM2146, H069). p.39
- R47 Lettre de Pierre de Provence à la reine. En forme d'avis, sur ce qui s'est passé en son pays (CM2043, H077). p.41
- R48 Lettre du comte duc d'Olivarez ministre d'État du roi d'Espagne, à Jules Mazarin cardinal et naguère ministre d'Etat du roi de France (CM2101, H081). p.49<sup>43)</sup>
- R49 Extrait des registres de la cour de parlement (Mazarinade inconnue<sup>44)</sup>). p.54
- R50 Lettre circulaire et véritable de l'archiduc Léopold. Envoyée à tous gouverneurs, prévôts et échevins des villes et bourgs de France, situés sur le chemin et la route de son armée<sup>45)</sup> (CM1828, H058). p.55
- R51 Autre extrait de la cour de parlement<sup>46)</sup> (Mazarinade inconnue<sup>47)</sup>). p.56
- R52 Lettre d'Aristandre à Cléobule, [où les conjectures politiques sur ce qui se passe à Saint-Germain]<sup>48)</sup> (CM1836, H060). p.57
- R53 Lettre d'un docteur de [l'université de]<sup>49)</sup> Paris, à la reine régente à Saint-Germain-en-Laye, sur le sujet de la paix<sup>50)</sup> (CM1862, H061). p.65
- R54 Lettre déchiffrée d'un mazariniste à Mazarin, trouvée entre Saint-Germain et Paris, et traduite d'Italien en français. Sur le mariage du parlement avec la ville de Paris<sup>51)</sup> (CM2067, H059). p.72
- R55 Mot (le) à l'oreille, ou le miroir qui ne flatte point (CM2498, H093). p.77
- R56 Contents (les) et mécontents sur le sujet du temps (CM0782, H022). p.81
- R57 Intérêt (l') des provinces (CM1714, H057). p.89

- 
- 1) 以下4種の選集(H100-H103)で一冊の合本が構成されている。
  - 2) 目次の題名と本文の題名が異なる場合がある。本文題名では« monseigneur » (=CM2099)。
  - 3) 前半(R06)が散文、後半(R07)が韻文。選集の目次では二文書扱いであるが、CM1178では散文、韻文合わせて一文書の扱い。
  - 4) 本文題名 : *Écho de la France*.
  - 5) CM0144 : Apparitions (les) épouvantable (*sic.*) [*sic.*] de l'esprit du marquis d'Ancre, venu par ambassade à Jule Mazarin. Le Marquis d'Ancre en reproches avec Mazarin.
  - 6) Cf. CM3554
  - 7) CM3554 : Robe (la) sanglante de Jules Mazarin, ou les Véritables récits des fourbes, des impostures et autres vices, par le sieur de Mirand, gentilhomme cécilien (*sic.*). Paris, François Musnier, 1649, 12p.
  - 8) 目次題名にのみ挿入。
  - 9) CM3035 : « diverses pièces »
  - 10) マザリヌ図書館では、該当する文書をCM2851としているが(M15075, M10249-2, M10539)、これはモローが同一文書を二度掲載しているため、CM3035とCM2851は同一文書が重複して掲載されたものである。
  - 11) 上記第一巻(CM3053)と以下三選集(CM3035)は別系統に属する。
  - 12) 本文題名 : Réception (la) de messieurs les gens du roi à Saint-Germain-en-Laye, et de celle du courrier d'Espagne au parlement de Paris, lui présentant la lettre de l'archiduc de Léopold, avec toutes les harangues qui ont été faites, et la réponse de la reine.
  - 13) 選集目次ではR16-R19(H098, H052, H099, H070)は独立した文書扱い。R16の本文に挿入された題名ではR16-R19が一つの文書をなす。文書の体裁としてはR16, R17, R18が一つの文書でR19は独立した文書、またR19の後に*Harangue*が置かれている。M.ではこの最後の計算法を採用している。末尾 : « Sur l'imprimé à Paris. A Rouen, par les imprimeurs de la Cour, avec permission ». R16-R19の4文書はすべて、CM0827に含まれる。CM0827 : Le Courrier extraordinaire, apportant les nouvelles de la réception de messieurs les gens du roi à Saint-Germain-en-Laye, et de celle du courrier d'Espagne au palais ; avec toutes les harangues qui ont été faites, Paris, Rollin de la Haye, 1649, 8p. (T:C-01-042).
  - 14) « De Bruxelles le 10 février 1649 »
  - 15) 「未知のマザリナード」とはいえ、この「手紙」は次に置かれた文書の前書きの役割を果たしているため、おそらくは選集に収録するにあたり、目次において本文から独立させた文書にすぎない。
  - 16) 本文題名にのみ挿入。
  - 17) CM1106 : Discours d'État et de religion sur les affaires du temps présent, à la reine. 全六部構成の文書で、「à messieurs du parlement」は第四部の文書。M12813 ; T : C-07-37.
  - 18) « A Paris, le 22, janvier 1649 »
  - 19) 本文題名 : Manifeste au roi, contenant quel doit être le conseil d'un prince. A la gloire du parlement. Par L.S.D.T.
  - 20) 本文題名にのみ挿入。
  - 21) 本文題名にのみ挿入。
  - 22) 本文題名にのみ挿入。
  - 23) 本文題名にのみ挿入。
  - 24) 本文題名 : Les Généreux sentiments de la noblesse française, sur le mauvais gouvernement de l'État. Par un ministre étranger.
  - 25) CM1488の題名は« Généreux... ».
  - 26) この語に関しては、「フランソワ」という固有名詞との掛詞でもありうることを考慮して、明らか

に普通名詞と考えられる場合でも原綴を残す。原綴が« français »の場合にはこの限りではない。

27) 本文題名にのみ挿入。

28) 選集中の他の文書と異なり、通し番号ではなく独自の頁番号が打たれているため (« pp.5-12 »)、この文書のみ収集選集の文書かもしれない。

29) 本文題名にのみ挿入。

30) CM1817 : Lettre circulaire, contenant un charitable avis à quelques villes de Champagne et Picardie, pour les inciter de se résoudre à prendre le bon parti du roi, et du parlement. Du 12 fév. 1649, Paris, François Preuveray, 1649, 7p. (T:A-05-073, T:C-03-055, T:D-02-012).

31) 本文題名にのみ挿入。

32) 目次では p.36 からと予告されている。

33) CM3334 には欠。

34) CM3334 : Remontrances à la reine régente sur le gouvernement de l'État, Paris, Arnould Cottinet, 1649, 8p. (T:C-09-45).

35) 本文題名では Maturin。

36) 本文題名にのみ挿入。

37) 本文題名 : Suite des visions nocturnes. de M. Maturin Questier parisien. Seconde Partie.

38) 本文題名 : Suite des visions nocturnes. de M. Mathurin [sic.] Questier parisien. Troisième Partie.

39) 本文題名にのみ挿入。

40) 本文題名 : La Déclaration du duc Charles, faite à nosseigneurs de parlement, et aux bourgeois de Paris, en faveur de la France. 選集中 R44-R46 (H069, H026, H083) は連続して印刷されているため、一文書とみなすことも可能である。

41) V. n.40.

42) V. n.40.

43) 目次では p.94 と誤植。

44) « le 22 mars 1649 ».この題名では見当たらないが、おそらく珍しい文書ではない。

45) « le 20 mars 1649 »

46) 本文題名 : « Extrait des registres de la cour de parlement ».

47) この題名では見当たらないが、おそらく珍しい文書ではない。

48) 本文題名にのみ挿入。

49) 本文題名にのみ挿入。

50) « signé Martin Griveau »

51) « signé Gio. Battista Lucrino ». p.71 に« au lecteur »有り。

Yasushi NORO  
Chargé de cours à l'Université Seijo

野 呂 康  
成城大学非常勤講師

本書の内容は HERMES-IR（一橋大学機関リポジトリ）でご覧になれます。  
<http://hdl.handle.net/10086/15814>

---

---

一橋大学社会科学古典資料センター *Study Series. No. 63*

発行所 東京都国立市中 2 - 1

一橋大学社会科学古典資料センター

発行日 2010年3月25日

---

---

